



Parallels Remote Application Server

Windows 用 Parallels Client ユーザーガイド

19.3

Parallels International GmbH
Vordergasse 59
8200 Schaffhausen
スイス
Tel: + 41 52 672 20 30
www.parallels.com

© 2023 Parallels International GmbH. All rights reserved. Parallels および Parallels ロゴは、カナダ、米国またはその他の国における、Parallels International GmbH の商標または登録商標です。

Apple、Safari、iPad、iPhone、Mac、macOS、iPadOS は、Apple Inc.の登録商標です。Google、Chrome、Chrome OS、Chromebook は、Google LLC の登録商標です。

その他のすべての社名、製品名、サービス名、ロゴ、ブランド、またすべての登録商標または未登録商標は、識別の目的でのみ使用されているものであり、それぞれの所有者の独占的な財産となります。サードパーティに関わるブランド、名称、ロゴ、その他の情報、画像、資料の使用は、それらを推奨することを意味するものではありません。当社は、これらサードパーティに関わる情報、画像、素材、マーク、および他社の名称について所有権を主張するものではありません。特許に関するすべての通知と情報については、<https://www.parallels.com/jp/about/legal/>をご覧ください。

目次

入門.....	5
Parallels RAS 19 のリリース履歴.....	5
システム要件.....	5
招待メールを使用した Parallels Client のインストール.....	6
Parallels Client の手動インストール.....	9
Parallels RAS への接続.....	10
Parallels Client の高度なインストール.....	15
Windows 用 Parallels Client の使用.....	19
新しい接続の追加.....	19
RAS 接続の設定.....	21
接続.....	23
ディスプレイ.....	26
印刷.....	28
スキャン.....	31
ローカル リソース.....	32
エクスペリエンス.....	34
ネットワーク.....	35
サーバー認証.....	35
詳細設定.....	36
RDP 接続の構成.....	40
接続.....	41
ディスプレイ.....	43
ローカル リソース.....	45
プログラム.....	47
エクスペリエンス.....	47
ネットワーク.....	48
サーバー認証.....	48
詳細設定.....	49
グローバル オプションの構成.....	52

RAS 接続の使用.....	56
公開されたリソースの起動.....	56
リモート アプリケーションの操作.....	57
ショートカットの管理.....	58
セッションの管理.....	58
ドメインアカウントのパスワードの変更.....	60
RDP 接続の使用	61
Parallels クライアント設定のエクスポートとインポート.....	61
Parallels クライアント コマンドライン パラメーター	62
コマンドラインからの単一ユーザー セッションの管理.....	62
コマンドラインからの複数セッションの管理.....	63

入門

Parallels® Client for Windows は、Windows コンピューターから Parallels RAS に接続し、リモート アプリケーションとデスクトップを実行できるようにするアプリです。

この章の内容

Parallels RAS 19 のリリース履歴.....	5
システム要件.....	5
招待メールを使用した Parallels Client のインストール.....	6
Parallels Client の手動インストール.....	9

Parallels RAS 19 のリリース履歴

次の表に、Parallels RAS 19 のリリース履歴を示します。Parallels RAS ドキュメントは、毎回のリリースごとに更新されます。このガイドは、以下の表から最新の Parallels RAS 19 リリースを参照しています。新しい Parallels RAS リリースまたはバージョンを使用している場合は、<https://www.parallels.com/jp/products/ras/resources/> からガイドの最新バージョンをダウンロードしてください。

Parallels RAS バージョン	リリース	日付
19.0	初回リリース	2022 / 07 / 27
19.0	更新 1	2022 / 08 / 31
19.0	修正 1	2022 / 09 / 16
19.0	修正 2	2022 / 09 / 30
19.0	修正 3	2022 / 10 / 14
19.1	更新 2	2022 / 11 / 15
19.2	更新 3	2023 / 07 / 06
19.3	初回リリース	2023 / 10 / 17

システム要件

Parallels Client 19 からは、x 86 、 x 64 、 および ARM 64 アーキテクチャがネイティブでサポートされます。

Windows 用 Parallels Client には、以下のソフトウェアおよびハードウェアの要件があります。

Windows 7、8x、10、11

- 上記バージョンの Windows に対して Microsoft が指定したものと同一ハードウェア要件。
- 一部の機能 (ハイカラー グラフィックス、サウンドなど) は、Windows コンピューターに適切なハードウェアがインストールされ、適切に構成されている場合にのみ使用できます。

招待メールを使用した Parallels Client のインストール

Parallels RAS 管理者から、Windows 用 Parallels Client のインストール方法と Parallels RAS 接続の設定方法が記載された招待メールが送信されます。招待メールには、以下の情報とアクションリンクが含まれています。

- システム管理者からのメッセージ。
- Windows 用 Parallels Client をダウンロードするためのリンク (Windows コンピューター以外のデバイスを使用している場合は、他のプラットフォーム用の Parallels Client へのリンクも含まれている場合があります)。
- Parallels RAS に接続できるように、コンピューター上で Parallels Client を自動的に設定するためのリンク。
- Parallels RAS 接続のプロパティ。この情報を使用して、Parallels RAS 接続を手動で作成できます。リンクを介した自動構成 (上記を参照) が推奨される最も簡単な方法ですが、何らかの理由で必要に応じて、この情報を使用して手動で接続を作成できます。

Windows 用 Parallels Client のインストール

招待メールを使用して Windows 用 Parallels Client をインストールするには、次の手順を実施します。

- 1 招待メールで、Windows サムネイルをクリックして Windows 用 Parallels Client インストーラーをダウンロードします。
- 2 ダウンロードが完了したら、ダウンロードフォルダーに移動し、ダウンロードしたファイルを実行します。
- 3 画面の指示に従ってインストールを開始します。
- 4 このコンピューターで管理権限を持っていない場合は、そのことを知らせるダイアログが表示されます。そのダイアログには **[Client のフルインストール]** と **[基本的な Client のインストール]** の 2 つのボタンがあります。このコンピューターの管理アカウントの資格情報を知っている場合は、**[Client のフルインストール]** をクリックし、資格情報が求められたら入力します。その資格情報に基づいてインストールが行われ、フルバージョンの Parallels Client がインストールされます。資格情報が分からない場合は、**[基本的な Client のインストール]** をクリックしてください。基本バージョンの Parallels Client を使用できますが、実行できない機能もあります。
- 5 **[ショートカット]** ページで、Parallels Client ショートカットを作成する場所を選択します。1 つ以上のオプションを選択できます。

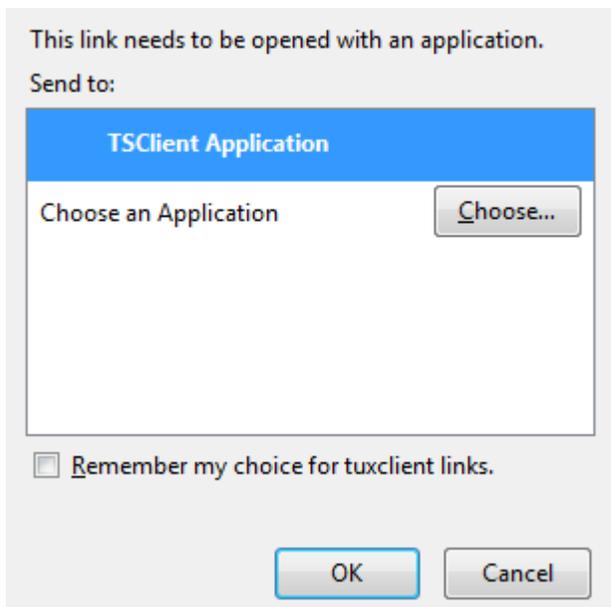
- 6 Parallels Client を Windows Server オペレーティング システムにインストールする場合、**[SSO のインストール]** ページは省略されます。サポートされている他のすべてのバージョンの Windows では、このページが表示されます。このページを使用して、**[シングル サインオン]** コンポーネントをインストールするかどうかを指定します。コンポーネントは自動的に資格情報を使用して Parallels RAS に接続します。コンポーネントが機能するには、インストール後にコンピューターを再起動する (またはログオフしてから再度ログオンする) 必要があることに注意してください。
- 7 **[次へ]** をクリックします。
- 8 **[インストールの準備完了]** ページで、**[インストール]** をクリックします。
- 9 インストールが完了したら、**[完了]** をクリックしてウィザードを閉じます。

次に、Parallels RAS に接続できるように、Parallels Client を設定する必要があります。システム管理者から受け取った招待メールには、このタスクを自動的に実行できるリンクが含まれています。Parallels Client を設定するには、以下の手順に従ってください。

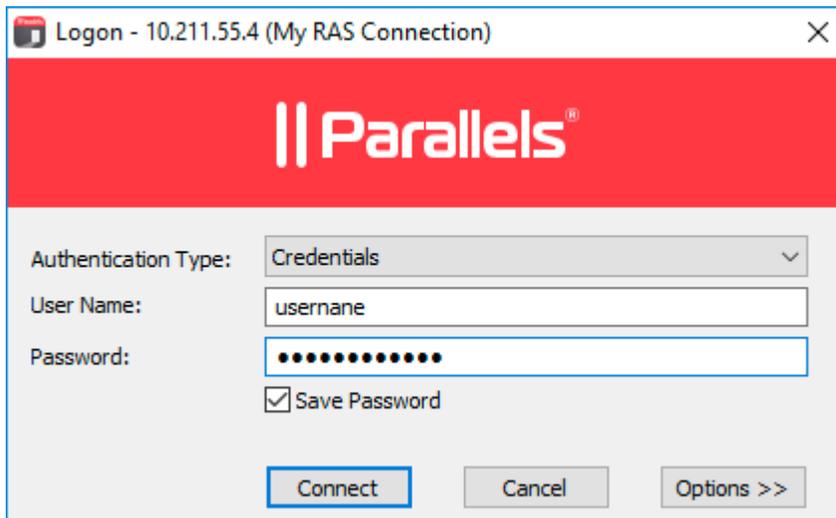
Windows 用 Parallels Client の構成

Parallels Client を設定するには、次の手順を実施します。

- 1 招待メールで **[構成]** セクションを見つけ、**[ここをクリックしてダウンロードしたクライアントを自動構成する]** リンクをクリックします。
- 2 リンクが Web ブラウザで開き、次のダイアログが表示されます。



- 3 **[TSClient アプリケーション]** アイテムが選択されていることを確認し、**[OK]** をクリックします。これにより、Windows 用 Parallels Client が構成され、**[ログオン]** 画面が表示されます。

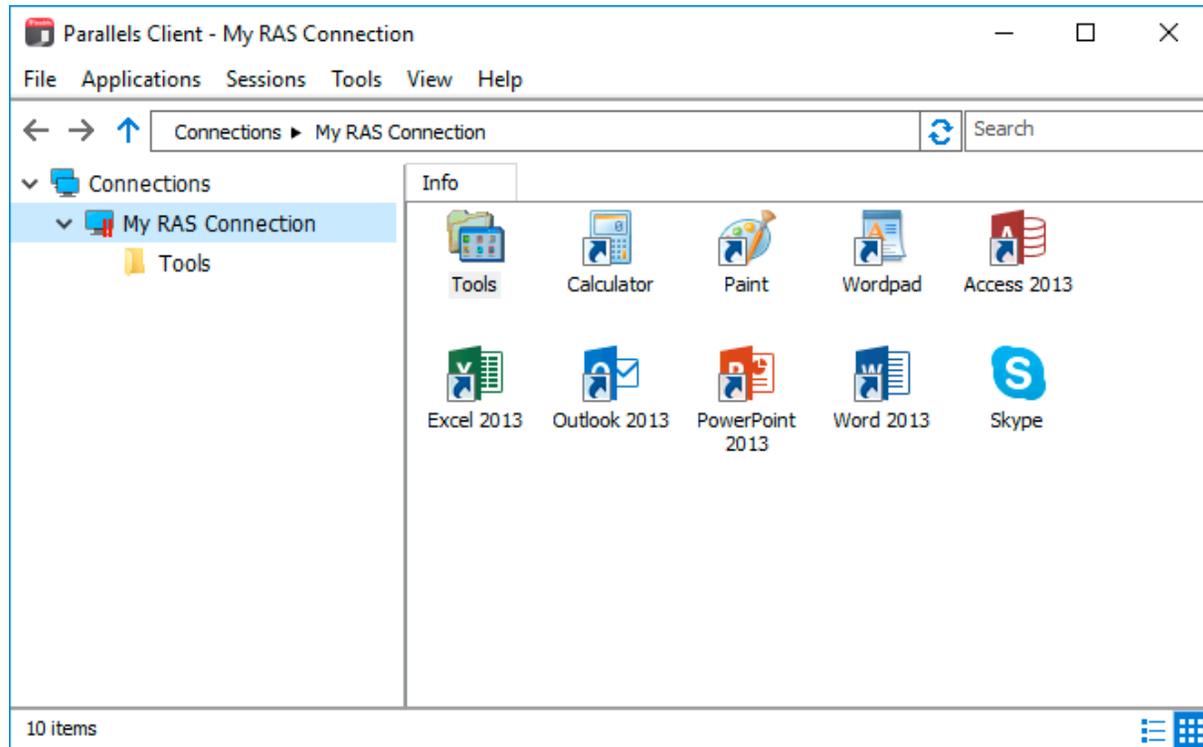


- 4 以下から **[認証タイプ]** を選択します。
- **認証情報**：ドメインユーザー名やパスワードなどの資格情報を入力して Parallels RAS に接続するには、このオプションを選択します。
 - **スマートカード**：スマートカードを使用して Parallels RAS に接続するには、このオプションを選択します。
 - **シングル サインオン**：Parallels Client のインストール時にシングル サインオン モジュールをインストールした場合のみ、このオプションがリストに含まれます。ローカル システムの資格情報を使用してリモートサーバーに接続するには、このオプションを選択します。

管理者への注意：許可された認証タイプを RAS コンソールの [接続 / 認証] で指定する必要があります。

- 5 選択した認証タイプに応じて、ユーザー名とパスワードを入力するか、スマートカードをリーダーに挿入します。スマートカードを使用している場合は、要求されたときに PIN を入力します。
- 6 **[接続]** をクリックします。

これで、**Parallels Client**のメインウィンドウが表示されます。ウィンドウの左側のペインには、自動的に構成された接続が表示されます。右側のペインには、使用できる公開済みのリソースが表示されます。



リソースをダブルクリックして開きます。リソースは、ローカル アプリケーションまたはドキュメント（または、公開されたリソースとして利用できる場合はリモート デスクトップ）であるかのように、ローカル コンピューターの別のウィンドウで開きます。

Parallels Client の手動インストール

Windows 用 Parallels Client をダウンロードとインストールは、前のセクションで説明したように、招待メールを使用するのが好ましい方法です。インストーラーを手動でダウンロードして実行する場合は、<https://www.parallels.com/products/ras/download/client> にアクセスしてください。

Windows 用 Parallels Client をインストールするには、次の手順を実施します。

- 1 Parallels Web サイトからダウンロードした Parallels Client インストーラーを実行し、画面の指示に従ってインストールします。

- 2 このコンピューターで管理権限を持っていない場合は、そのことを知らせるダイアログが表示されます。そのダイアログには **[Client のフルインストール]** と **[基本的な Client のインストール]** の 2 つのボタンがあります。このコンピューターの管理アカウントの資格情報を知っている場合は、**[Client のフルインストール]** をクリックし、資格情報が求められたら入力します。その資格情報に基づいてインストールが行われ、フルバージョンの Parallels Client がインストールされます。資格情報が分からない場合は、**[基本的な Client のインストール]** をクリックしてください。基本バージョンの Parallels Client を使用できますが、実行できない機能もあります。
- 3 **[ショートカット]** ページで、Parallels Client ショートカットを作成する場所を選択します。1 つ以上のオプションを選択できます。
- 4 Parallels Client を Windows Server オペレーティング システムにインストールする場合、**[SSO のインストール]** ページは省略されます。サポートされている他のすべてのバージョンの Windows では、表示されます。このページを使用して、**[シングル サインオン]** コンポーネントをインストールするかどうかを指定します。コンポーネントは自動的に資格情報を使用して Parallels RAS に接続します。コンポーネントが機能するには、インストール後にコンピューターを再起動する (またはログオフしてから再度ログオンする) 必要があることに注意してください。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 **[インストールの準備完了]** ページで、**[インストール]** をクリックします。
- 7 インストールが完了したら、**[完了]** をクリックしてウィザードを閉じ、Windows 用 Parallels Client を起動します。

Parallels RAS への接続

Parallels Client を手動でインストールして初めて実行すると、新しい接続を構成するかどうかを尋ねられます。**[はい]** をクリックします。これにより、**[新しい接続]** ダイアログが開きます。

The image shows a 'New Connection' dialog box. At the top, there is a red banner with the Parallels logo. Below the banner, the text reads: 'Access your apps and desktops by providing your work email or server address.' There is a text input field with a vertical cursor. At the bottom of the dialog, there are three buttons: 'Create RDP Connection instead' (a blue link), 'Next' (a blue button), and 'Cancel' (a grey button).

このダイアログで指定する必要がある接続情報は、システム管理者から提供されます。管理者から招待メールを受け取った場合、接続情報はメッセージの下部に記載されています。この情報は以下のように記載されます。

RASの接続を手動で構築するには、以下の設定を使用します。

サーバー : 192.168.1.10

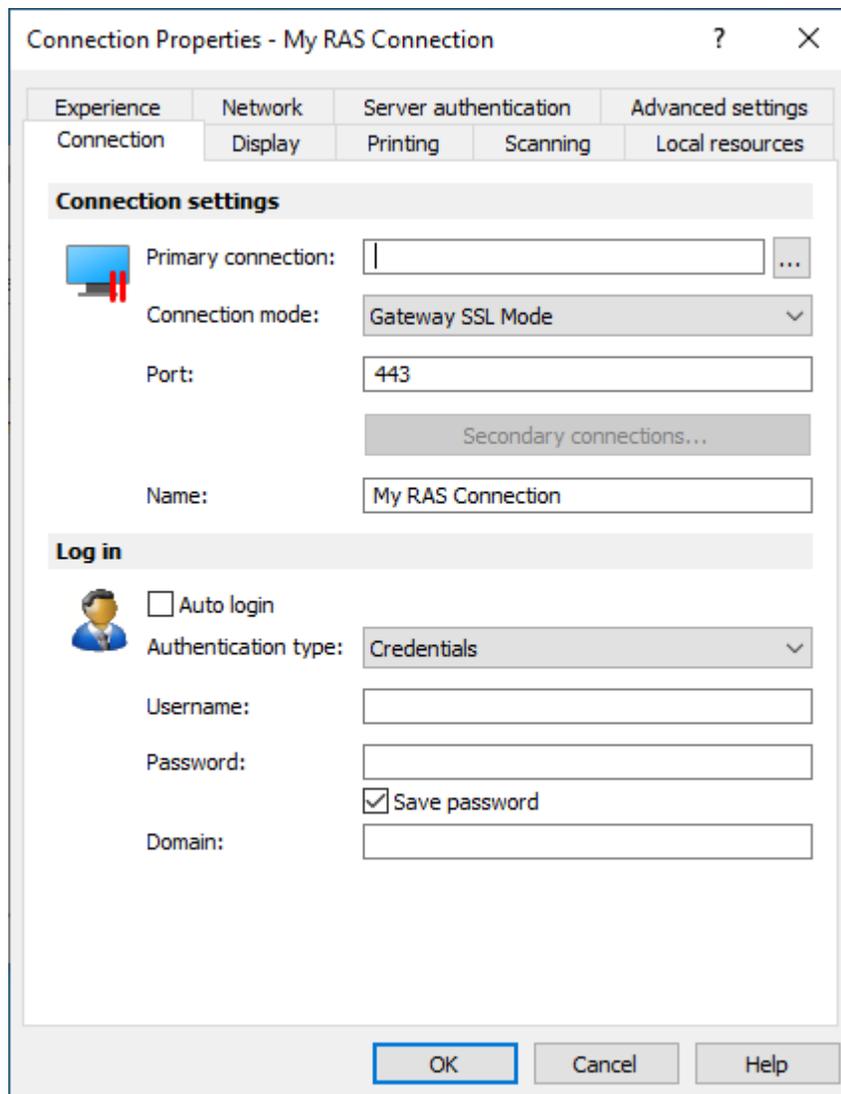
ポート : 443

接続モード : ゲートウェイ SSL モード

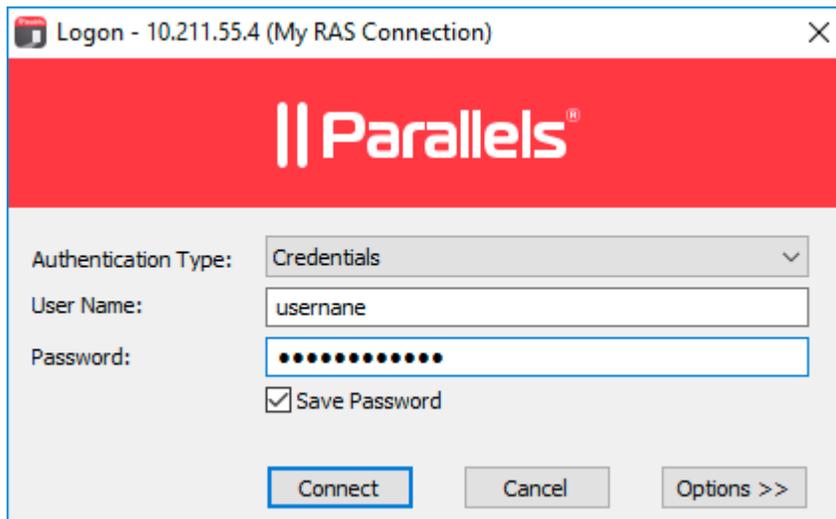
接続プロパティを指定するには、次の手順を実施します。

- 1 Parallels RAS の IP アドレス、ホスト名 (RAS Secure Gateway が存在するサーバー) 、または勤務先のメール アドレスを入力します。使用するものはシステム管理者から伝えられるはずでず。
- 2 [次へ] をクリックします。
- 3 **[接続モード]** フィールドで、次のいずれかのオプションを選択します (システム管理者から要求されたモードを使用する必要があることに注意してください) 。
 - **ダイレクトモード** : Parallels Client は、最初に RAS Secure Gateway に接続して、利用可能な最良のターミナル サーバーを探し、次にそのサーバーに直接接続します。これは、Parallels Client とターミナルサーバーが同じネットワーク上にある場合に最適です。
 - **ダイレクト SSL モード** : 上記のダイレクトモードと同じですが、暗号化を使用してデータを保護します。
 - **ゲートウェイモード** : Parallels Client は RAS Secure Gateway に接続し、セッション接続は最初に使用可能な接続を介してトンネリングされます。このモードは、ゲートウェイ経由でのみ到達可能で、高レベルのセキュリティを必要としないサーバーに最適です。
 - **ゲートウェイ SSL モード** : 上記のゲートウェイモードと同じですが、暗号化を使用してデータを保護します。
- 4 **[フレンドリ名]** フィールドで、この接続のフレンドリ名を選択して入力します。
- 5 システム管理者からポート番号を指定するように指示された場合は、次の手順を実行します。
 - a **[詳細設定]** リンクをクリックします。**[接続プロパティ]** ダイアログが開きます (下のスクリーンショットを参照) 。
 - b **[ポート]** フィールドにポート番号を指定します。
 - c 必要に応じて、他のプロパティを確認および変更することもできます。これらについては、このガイドの後半で詳しく説明します。

- d **[プライマリ接続]** フィールドの横にある [...] ボタンを使用すると、Parallels RAS サーバーを選択できます (これはサーバー側で **[Secure ゲートウェイのアドレスを伝播する]** オプションが有効になっている場合にのみ機能します)。



- 6 **[OK]** をクリックします。**[ログオン]** ダイアログが開きます。



- 7 **[認証タイプ]** ドロップダウン リストで、目的の認証方法を選択します。

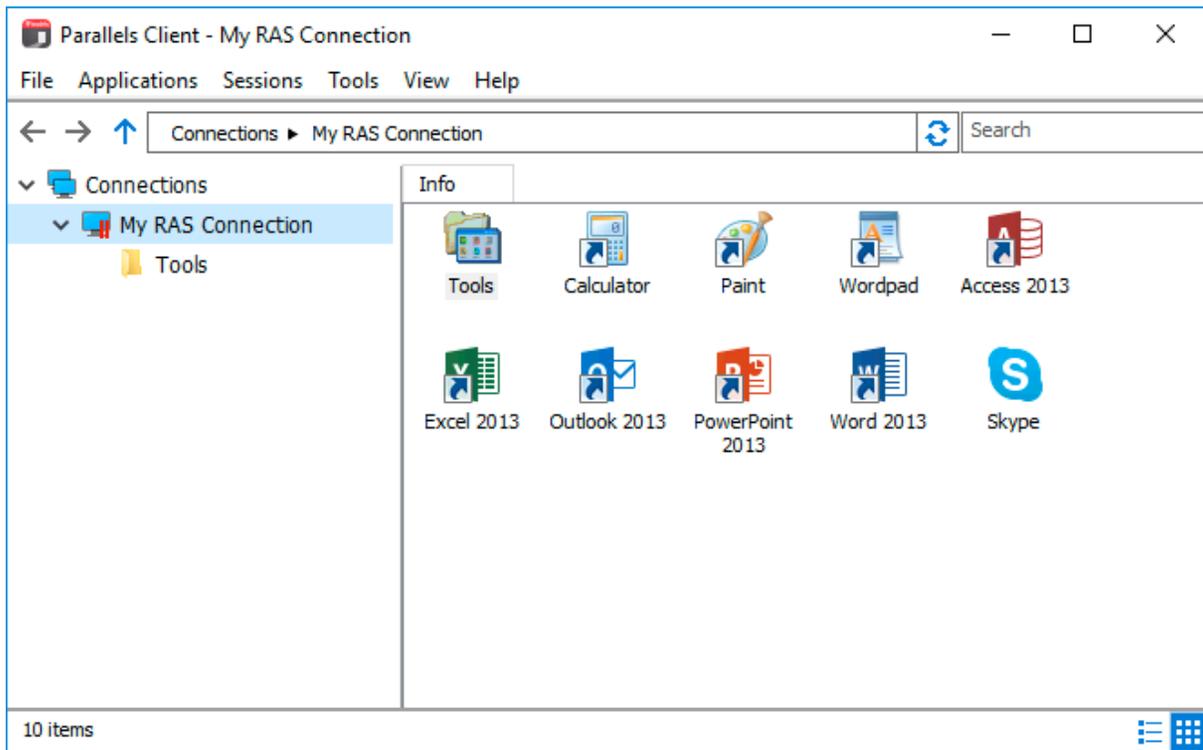
- **認証情報**：このオプションを選択し、ユーザー名とパスワードを入力します。指定された認証情報を使用して、リモートサーバーで認証されます。
- **スマートカード**：スマートカードを使用して認証するには、このオプションを選択します。リモートサーバーに接続するときは、スマートカードをカードリーダーに挿入し、要求されたときに PIN を入力します。
- **シングル サインオン**：Parallels Client のインストール時にシングル サインオン モジュールをインストールした場合のみ、このオプションがリストに含まれます。ローカル システムの資格情報を使用してリモートサーバーに接続するには、このオプションを選択します。
- **ウェブ**：SAML SSO 認証を使用するには、このオプションを選択します。

管理者への注意：許可された認証タイプを RAS コンソールの **[接続 / 認証]** で指定する必要があります。

- 8 **[接続]** をクリックします。

- 9 この手順は、Google 認証アプリを使用した 2 要素認証が管理者によって Parallels RAS で設定されているかどうかによって、表示される場合と表示されない場合があります。Parallels RAS が Google 認証を使用するように設定されている場合は、追加の手順を実行する必要があります。まず、モバイルデバイスに Google 認証アプリをインストールする必要があります。Parallels Client で **[接続]** をクリックすると、バーコード (QR コード) と秘密鍵が表示されたダイアログが表示されます。コードをスキャンして (または秘密鍵を入力して) 認証アプリに入力します。アプリがワンタイムパスワードを生成します。Parallels Client で **[次へ]** をクリックし、**[OTP]** フィールドにワンタイムパスワードを入力します。**[接続]** をクリックします。以降のログオンでは、ワンタイムパスワードを入力するだけで済みます。手順については、以下の「**Google 認証の使用**」サブセクションをご覧ください。

10 接続に成功すると、Parallels Client のメインウィンドウが表示され、接続先と公開リソースが表示されます。



Google 認証の使用

ログイン手順中に多要素認証ダイアログが表示される場合は、以下の手順を実施してください。このダイアログは、IT 管理者が Google 認証アプリを使用した 2 要素認証を設定したときに表示されます。

重要: Google 認証を使用するには、パソコンの時刻が time.google.com などのグローバル NTP タイム サーバーと同期されている必要があります。そうでない場合、Google 認証は失敗します。

Google 認証を使用するには、iOS または Android デバイスに認証アプリをインストールする必要があります。Google Play または App Store にアクセスして、アプリをインストールしてください。認証アプリをインストールすると、2 要素認証を使用して Parallels RAS に接続する準備が整います。

Parallels RAS に接続するには、次の手順を実施します。

- 1 Parallels Client を開き、自分の資格情報を使用してログインします。
- 2 多要素認証ダイアログが開き、バーコード (QR コード) と秘密鍵が表示されます。
- 3 モバイルデバイスで Google 認証アプリを開きます。
 - 初めて使用する場合は、**[開始]** をタップしてから、**[バーコードをスキャンする]** をタップします。

- Google 認証の別のアカウントを持っている場合は、プラス記号のアイコンをタップして、**[バーコードをスキャンする]** を選択します。
- 4 コンピューターに戻り、Parallels Client のログインダイアログに表示されているバーコードをスキャンします。
何らかの理由でスキャンが機能しない場合は、認証アプリに戻り、**[秘密鍵を入力する]** を選択し、アカウント名と Parallels Client のログインダイアログに表示されている秘密鍵を入力します。
 - 5 **[アカウントを追加する]** をタップします。これにより、RAS 接続用のアカウントが作成され、ワンタイムパスワードが表示されます。
 - 6 Parallels Client に戻り、**[次へ]** をクリックし、**[OTP]** フィールドにワンタイムパスワードを入力します。
- その後のログオンでは、資格情報 (**[パスワードの保存]** オプションが選択されている場合不要) と、Google 認証アプリで取得したワンタイムパスワードを入力するだけです (アプリによって新しいパスワードが生成されます)。IT 管理者には、Google 認証のユーザーアカウントをリセットする権限があることに注意してください。アカウントがリセットされた場合は、上記の登録手順を繰り返す必要があります。

Parallels Client の高度なインストール

注： このセクションは、IT 管理者を対象としています。組織の IT 管理者でない場合は、スキップできます。

Windows 用 Parallels Client インストーラーは MSI 形式を使用します。これにより、グループポリシー、または MSI インストーラーと連携できるその他の展開ツールを使用してリモートで展開することができます。

クライアントのインストール設定を変更するには、2 つの方法があります。

- Orca.exe を使用して元のファイルを変更します。
- 以下のコマンドラインからインストーラーを実行します。

```
msiexec.exe /i RASClient.msi ( 64 ビット版を使用している場合は RASClient - x 64 .msi)
```

サイレントインストール

サイレントインストールを実行するには、以下のコマンドを実行します。

```
msiexec.exe /qn /i RASClient.msi
```

上記のコマンドで、64 ビット版の Windows 用 Parallels Client を使用している場合は、*RASClient - x 64 .msi* を指定します。

一般的な設定

上記で指定したインストールコマンドを実行する場合、以下のプロパティを *msiexec.exe* に *PROPERTY=VALUE* 表記で渡すことができます。

DEFSETTINGS : Parallels Client インストーラーが 2 xsetting. 2 xc (クライアントが使用するすべての設定を含むファイル) をデフォルト設定として読み取る場合に使用します。

DEFSETXML : XML 設定を手動で入力する場合に使用します。

OVERRIDEUSERSETTINGS : ユーザー設定をクライアントの MSI 設定で上書きします。

- 0 - クライアント設定は上書きされません
- 1 - クライアント設定は、クライアント MSI セットアップの新しい設定で上書きされます。

DISABLEOPTIONS : [オプション] ボタンを無効にして、クライアント設定を構成するためのオプションを非表示にします。このオプションは、管理者権限のないユーザーに適用できます。

- 0 - オプションを有効にします。
- 1 - オプションを無効にします。

DISABLEOPTIONSADMIN : [オプション] ボタンを無効にして、クライアント設定を構成するためのオプションを非表示にします。このオプションは、管理者権限を持つユーザーに適用できます。

DISABLESAVEPASSWORDADMIN : クライアントが管理者権限を持っている場合でも、パスワードを保存できないようにします。

- 0 - パスワードを保存するオプションを有効にします。
- 1 - パスワードを保存するオプションを無効にします。

DISABLESAVEPASSWORD : クライアントがパスワードを保存できないようにします。このオプションは、管理者権限を持つユーザーでは無視されます。

- 0 - パスワードを保存するオプションを有効にします。
- 1 - パスワードを保存するオプションを無効にします。

INSTALLSSO : サイレントインストール時に SSO を除外または含める。

- 1 - SSO をインストールします。ADDLOCAL=F_SSO INSTALLSSO= 1 のように、ADDLOCAL=F_SSO も必要です。
- 0 - SSO を除外します。

IGNORESETTCREDS : .2 xc ファイルで使用可能な資格情報の使用を制御します (ビルド 16.2.4.19490 および 16.5.1 以降で使用可能)。

- 0 - .2 xc ファイルからインポートされた接続は、.2 xc ファイル (存在する場合) に保存されている資格情報を使用します。
- 1 - .2 xc ファイルの資格情報は無視されます (これがデフォルトです)。

上記の IGNORESETTCREDS オプションを使用すると、Parallels Client をインストールするときに、事前構成された RAS 接続設定を自動的に追加できます。これを行うには次の手順を実施します。

- 1 まず、Parallels Client を一部のコンピューターにインストールし、目的の接続を構成します。接続のためのパスワードを設定し、**[パスワードの保存]** を選択します。

- 2 クライアントの設定をファイルに書き出します。
- 3 ユーザーのコンピューターに Parallels Client をクリーンインストールする場合、以下のコマンドラインパラメータを使用します。

```
DEFSETTINGS=< 2 xc ファイル> IGNORESETTCREDS= 0
```

ここで、< 2 xc file> は手順 2 でエクスポートしたファイルの名前です。

- 4 インストール後、インポートされた接続設定は、特定のコンピューターのすべてのユーザーが Parallels Client で使用できるようになります。

SHAREDDVICE : デバイス上のすべてのユーザーに対して、共有の RAS 接続を作成します。このコマンドを使用するには管理者権限が必要です。

コマンドは次のような形式です。

```
msiexec.exe /qn /i RASClient.msi SHAREDDVICE = "mode:settingsstring"
```

上記のコマンドでは、*mode* オプションは以下の値を持つことができます。

- 0 — 共有接続を削除します。この値を使用する場合、*settingsstring* は [0 :] のように空である必要があります。
- 1 — 共有接続を作成します。このモードでは、IT 管理者が接続の認証タイプを設定し、ユーザーは選択したタイプを使用して認証します。
- 2 — 共有資格情報を持つ共有接続を作成します。このモードでは、IT 管理者が接続のための認証情報を設定し、ユーザーは認証情報を提供しなくても自動的に認証されます。

settingsstring オプションは、以下の値を設定することができます。

- UI — 共有接続のプロパティを入力するための UI を表示します。
- インポート — [export] コマンド (下記) で作成した .xml ファイルから、共有接続プロパティをインポートします。形式は [1 : import : c : / my data / my file.xml] となります。
- エクスポート — 共有接続のプロパティをエクスポートし、[import] コマンド (上記) を使って別のデバイスでインポートできるようにします。形式は [1 : export : c : / my data / my file.xml] となります。

Active Directory の使用

Active Directory を介してアプリケーションを展開する方法は 2 つあります。アプリケーションを公開する方法と、アプリケーションを割り当てる方法です。

アプリケーションはユーザーにのみ公開できますが、ユーザーまたはコンピューターのいずれかにアプリケーションを割り当てることができます。アプリケーションは、使用方法に応じて、さまざまな方法で展開されます。

Parallels は、管理者がアプリケーションをコンピューターに割り当てることを推奨しています。主な理由は、次にコンピューターを再起動したときにアプリケーションが実際にインストールされるからです。

ユーザーに割り当てる場合、ユーザーがアプリケーション用に作成されたアイコンを実際にクリックするまで、アプリケーションはインストールされません。

特定のコンピューターにアプリケーションを割り当てるには、Active Directory で以下の手順を実施するだけです。

- 1 グループポリシー エディターを開きます。
- 2 アプリケーションをコンピューターに割り当てるには、グループポリシー コンソールから [コンピューターの構成] > [ソフトウェアの設定] > [ソフトウェア インストール] の順に移動します。[ソフトウェア インストール] を右クリックし、コンテキスト メニューで **[新規]** > **[パッケージ]** をクリックします。適切な MSI ファイルを選択し、**[開く]** をクリックします。ここで、アプリケーションを公開するか割り当てるかを尋ねられます。**[割り当て済み]** を選択して **[OK]** をクリックします。

サイレントインストールを実行する場合、MSI は以下の構文で MSI を展開することができますので、ご注意ください (64 ビット版の場合は、*RASClient - x 64 .msi* を使用します) 。

```
msiexec /qn /i RASClient.msi
```

例

以下の例では、DISABLESAVEPASSWORD= 0 オプション (パスワードの保存機能を有効にする) を使用して Parallels Client をインストールし、SSO インストールをスキップします。

```
msiexec /qn /i XClient.msi DISABLESAVEPASSWORD= 0
```

Windows 用 Parallels Client の使用

この章では、Parallels RAS 接続のセットアップ、環境設定の方法、および Parallels Client を使用してリモート アプリケーションとデスクトップを起動する方法について説明します。

この章の内容

新しい接続の追加	19
RAS 接続の設定	21
RDP 接続の構成	40
グローバル オプションの構成	52
RAS 接続の使用	56
RDP 接続の使用	61
Parallels クライアント設定のエクスポートとインポート	61
Parallels クライアント コマンドライン パラメーター	62

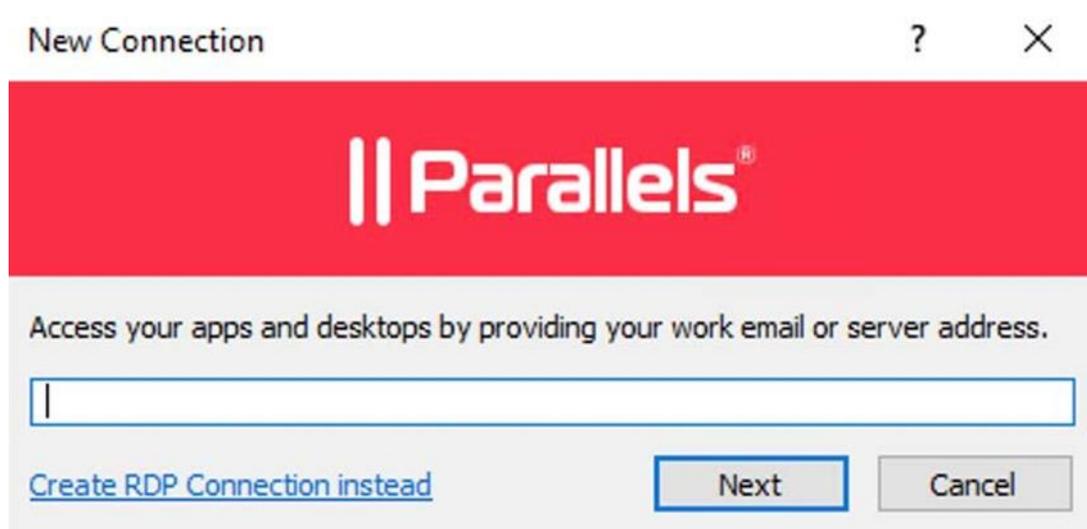
新しい接続の追加

Windows 用 Parallels Client では複数の接続を持つことができるため、異なるサーバーに接続したり、異なる接続プロパティを使用したりすることが簡単にできます。

接続を追加するには、次の手順を実施します。

- 1 [スタート] > [すべてのアプリ] > [Parallels] > [Parallels Client] をクリックして Parallels Client を開きます (またはデスクトップの [Parallels Client] アイコンをダブルクリックします)。

Parallels Client のメインウィンドウで、[ファイル] > [新しい接続] メニュー項目をクリックします。[新しい接続] ダイアログが開きます。



2 以下のいずれかを行ってください。

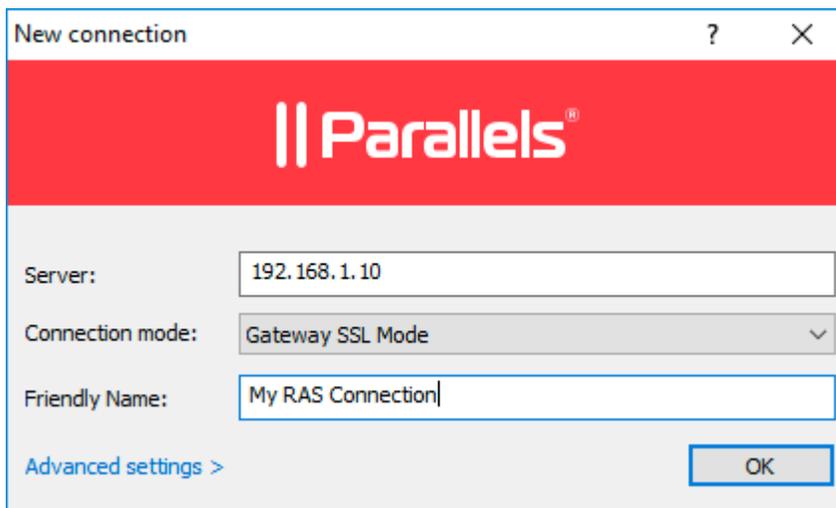
- Parallels RAS 接続を作成する場合は、Parallels RAS の IP アドレス、ホスト名 (RAS Secure Gateway が存在するサーバー)、または勤務先のメール アドレスを入力します。

注：メールによる接続検出は、システム管理者が設定する必要があります。このオプションが有効になっていることを確認するには、システム管理者にお問い合わせください。

- RDP 接続を作成する場合は、代わりに [RDP 接続の作成] ボタンをクリックします。

3 [次へ] をクリックします。

4 次のダイアログで、接続プロパティを指定します。



Parallels RAS 接続を作成する場合、このダイアログで指定する必要がある接続情報は、システム管理者から提供される必要があります。管理者から招待メールを受け取った場合、そのメッセージの下部にこの情報が記載されています。情報は以下のようなものになります。

RAS 接続を手動で構成するには、次の設定を使用します。

サーバー : 192.168.1.10

ポート : 443

接続モード : ゲートウェイ SSL モード

標準 RDP 接続を作成する場合、接続するリモート コンピューターの IP アドレスまたはホスト名を知っておく必要があります。

- 5 標準 RDP 接続を作成する場合、[サーバー] フィールドにリモート コンピューターの IP アドレスまたはホスト名を指定します。Parallels RAS 接続を作成する場合、このフィールドは自動入力されます。
- 6 **[接続モード]** ドロップダウン リストは、Parallels RAS 接続を作成する場合にのみ有効になります。次のいずれかのオプションを選択します (システム管理者から要求されたモードを使用する必要があることに注意してください) 。
 - **ダイレクトモード** : Parallels Client は、最初に RAS Secure Gateway に接続して、利用可能な最良のターミナルサーバーを探し、次にそのサーバーに直接接続します。これは、Parallels Client とターミナルサーバーが同じネットワーク上にある場合に最適です。
 - **ダイレクト SSL モード** : 上記の直接モードと同じですが、暗号化を使用してデータを保護します。
 - **ゲートウェイモード** : Parallels Client は RAS Secure Gateway に接続し、セッション接続は最初に使用可能な接続を介してトンネリングされます。このモードは、ゲートウェイ経由でのみ到達可能で、高レベルのセキュリティを必要としないサーバーに最適です。
 - **ゲートウェイ SSL モード** : 上記のゲートウェイモードと同じですが、暗号化を使用してデータを保護します。
- 7 **[フレンドリ名]** フィールドで、この接続のフレンドリ名を選択して入力します。
- 8 **[詳細設定]** リンクをクリックすると、**[接続プロパティ]** ダイアログが開き、追加の接続プロパティを指定できます。詳細については、「**RAS 接続の構成** (p. 21) 」または「**RDP 接続の構成** (p. 40) 」を参照してください。
- 9 **[OK]** をクリックして接続を作成し、Parallels RAS に接続します。

RAS 接続の設定

既存の Parallels RAS 接続のプロパティを表示および変更するには、Parallels Client のメインウィンドウで既存の接続を右クリックし、コンテキストメニューから **[接続プロパティ]** をクリックします。すると、**[接続プロパティ]** ダイアログが表示されます。ダイアログ内のプロパティは、タブページを使用して機能ごとにグループ化されています。以下のサブセクションでは、各タブページの詳細を説明します。

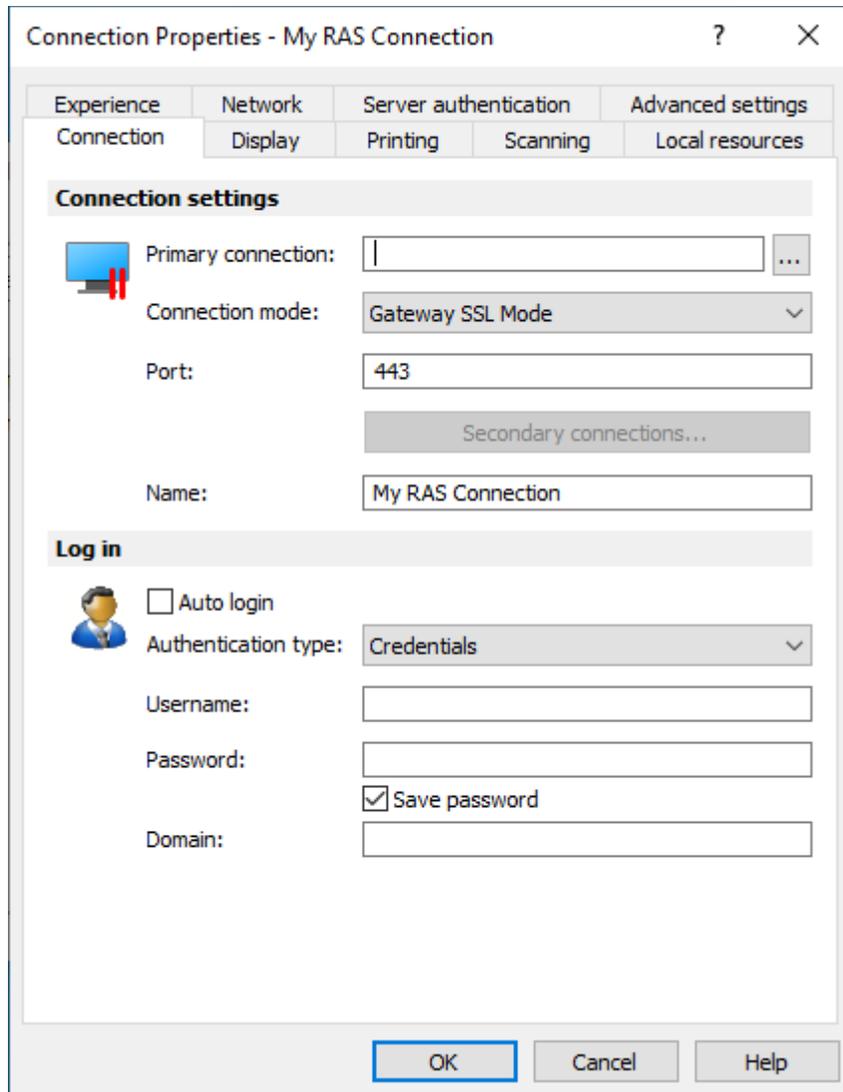
- 接続 (p. 23)
- ディスプレイ (p. 26)
- 印刷 (p. 28)

- スキャン (p. 31)
- ローカル リソース (p. 32)
- エクスペリエンス (p. 34)
- ネットワーク (p. 35)
- サーバー認証 (p. 35)
- 詳細設定 (p. 36)

注： IT 管理者の場合、インストール中に 1 つ以上の事前設定された接続を Parallels Client に自動的に追加できます。詳細については、「**Parallels Client の高度なインストール**」セクション (p. 15) の「IGNORESETTCREDS」オプションの説明を参照してください。

接続

[接続] タブページでは、接続設定とログイン情報を指定できます。



プライマリ接続構成

[接続] タブページで、プライマリ接続と 1 つ以上のセカンダリ接続を構成します。

プライマリ接続は、Parallels Client が指定されたサーバーに接続するために最初に使用する接続です。これは、プライマリ RAS Secure Gateway が実行されているサーバーである必要があります。

プライマリ接続情報を指定するには、次の手順を実施します。

- 1 **[プライマリ接続]** フィールドで、サーバー名または IP アドレスを指定します。特定の RAS テーマに接続するには、サーバー名または IP アドレスの後にスラッシュで区切って名前を指定します。たとえば、workspaceus.parallelsras.net/theme 1 です。使用するテーマがわからない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

[...] ボタンをクリックして、リストからサーバーを選択できます。サーバーがリストにない場合は、システム管理者がサーバー側でこの機能を無効にしたことを意味します。このような場合は、**[プライマリ接続]** フィールドにサーバーの名前または IP アドレスを入力してサーバーを指定します。

管理者への注意： [...] ボタンでサーバーを表示するには、サーバー側で [Secure ゲートウェイのアドレスを伝播する] オプションを有効にする必要があります。

- 2 **[接続モード]** ドロップダウン リストで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - **ゲートウェイモード：** Parallels Client は RAS Secure Gateway に接続し、セッション接続は最初に使用可能な接続を介してトンネリングされます。このモードは、ゲートウェイ経由でのみ到達可能で、高レベルのセキュリティを必要としないサーバーに最適です。
 - **ゲートウェイ SSL モード：** 上記のゲートウェイモードと同じですが、暗号化を使用してデータを保護します。
 - **ダイレクトモード：** Parallels Client は、最初に RAS Secure Gateway に接続して、利用可能な最良のターミナルサーバーを探し、次にその特定のサーバーに直接接続します。これは、Parallels Client とターミナルサーバーが同じネットワーク上にある場合に最適です。
 - **ダイレクト SSL モード：** 上記の直接モードと同じですが、暗号化を使用してデータを保護します。
- 3 **[ポート]** フィールドで、ゲートウェイが着信接続を待機するポートを指定します。サーバー側でデフォルト値が変更されている場合は、ここでもデフォルト値を置き換える必要があります。それ以外の場合は、デフォルト値をそのままにします。
- 4 **[名称]** フィールドで、任意の名前を選択して入力します。

セカンダリ接続の構成

接続しているサーバーに複数の RAS Secure Gateway がある場合は、プライマリ接続に失敗した場合のバックアップ接続として使用するセカンダリ接続を定義することができます。

セカンダリ接続を追加するには、次の手順を実施します。

- 1 **[セカンダリ接続]** ボタンをクリックします。
- 2 **[セカンダリ接続]** ダイアログで、**[追加]** ボタンをクリックし、サーバー名または IP アドレスを指定します。これは、セカンダリ RAS Secure Gateway をホストするサーバーである必要があります (Primary Gateway はプライマリ接続によって使用されます)。**[...]** ボタンをクリックして、リストからサーバーを選択できます。使用可能なサーバーがない場合 (または目的のサーバーがリストにない場合)、表示されたフィールドにサーバー情報を入力します。
- 3 接続モードを選択し、必要に応じてポート番号を変更します。**[OK]** をクリックします。
- 4 **[セカンダリ接続]** ダイアログに戻ると、複数の接続がある場合はリストの上下に移動することができます。プライマリ接続を確立できない場合、Parallels Client はリストされている順序でセカンダリ接続を使用します。

5 [OK] をクリックします。

ログイン情報の構成

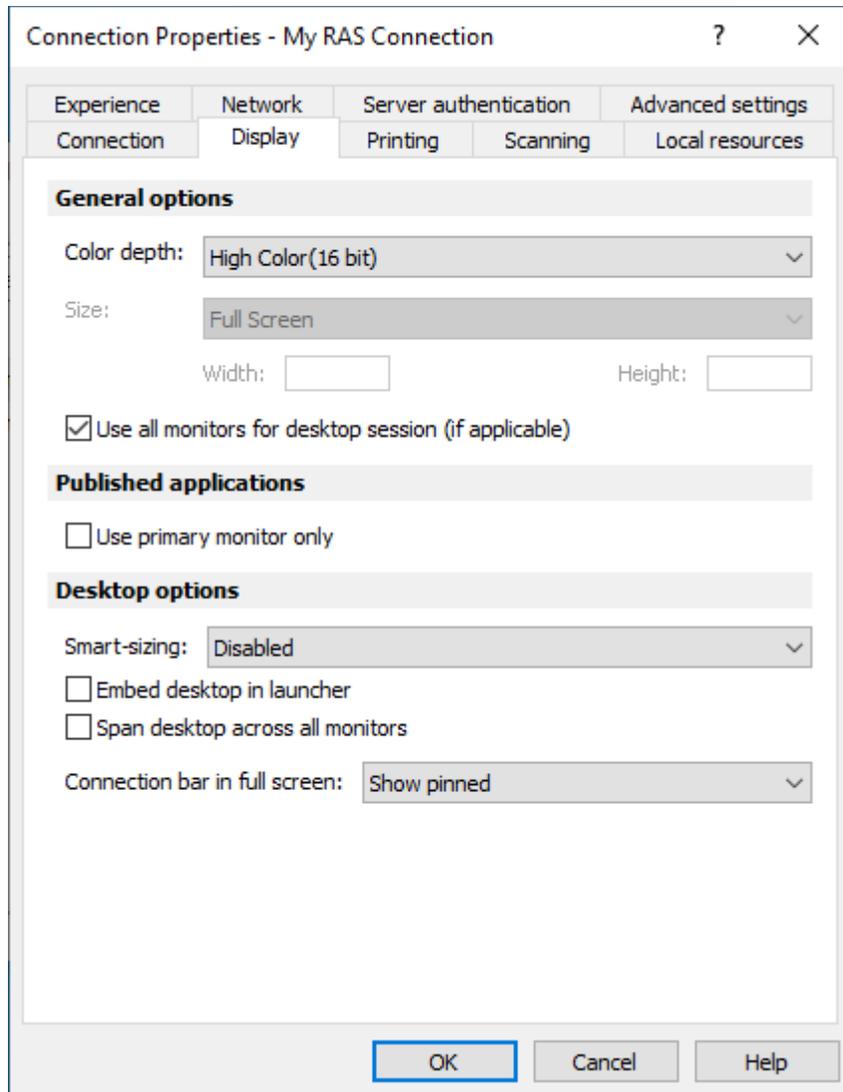
[ログイン] セクションで、次のプロパティを指定します。

- 1 **[自動ログイン]** オプションを選択すると、Parallels Client が起動時に (この接続を使用して) 自動的に接続できるようになります。
- 2 **[認証タイプ]** ドロップダウン リストで、目的の認証方法を選択します。
 - **認証情報** : このオプションを選択してから、ユーザー名とパスワードおよびドメイン情報を入力します。指定された認証情報を使用して、リモートサーバーで認証されます。
 - **スマートカード** : スマートカードを使用して認証するには、このオプションを選択します。リモートサーバーに接続するときは、スマートカードをカードリーダーに挿入し、要求されたときに PIN を入力します
 - **シングル サインオン** : Parallels Client のインストール時にシングル サインオン モジュールをインストールした場合のみ、このオプションがリストに含まれます。ローカル システムの資格情報を使用してリモートサーバーに接続するには、このオプションを選択します。
 - **ウェブ** : SAML SSO 認証を使用するには、このオプションを選択します。

管理者への注意 : 許可された認証タイプを RAS コンソールの [接続 / 認証] で指定する必要があります。

ディスプレイ

[ディスプレイ] タブページでは、表示オプションを構成できます。



通常オプション

- **色深度**：目的の色深度を指定します。
- **サイズ**：このオプションは、標準 RDP 接続でのみ使用できます。
- **(可能な場合) デスクトップ接続にすべてのモニターを使用**：(複数ある場合) すべてのモニターを使用するには、このオプションを選択します。

公開アプリケーション

- **プライマリ モニターのみ使用**：公開されたリソースをプライマリ モニターのみに表示します。コンピューターに接続されている他のモニターは使用されません。
- **動的なデスクトップのサイズ変更を使用する**：公開リソースにローカル デスクトップの表示設定を使用させたい場合は、このオプションを選択します。

デスクトップ オプション

- **ディスプレイ設定**：公開されたリソースをどのモニターで表示するかを選択します。以下のオプションを設定できます。
 - **すべて**：すべてのディスプレイに表示されます。
 - **プライマリ**：プライマリ ディスプレイは、以下のように変更できます。
 - **ディスプレイ選択**：1 つまたは複数のディスプレイを手動で選択します。ディスプレイを選択するには、このオプションを選択し、**[構成]** をクリックします。ディスプレイに対応する番号を確認するには、**[確認]** をクリックします。

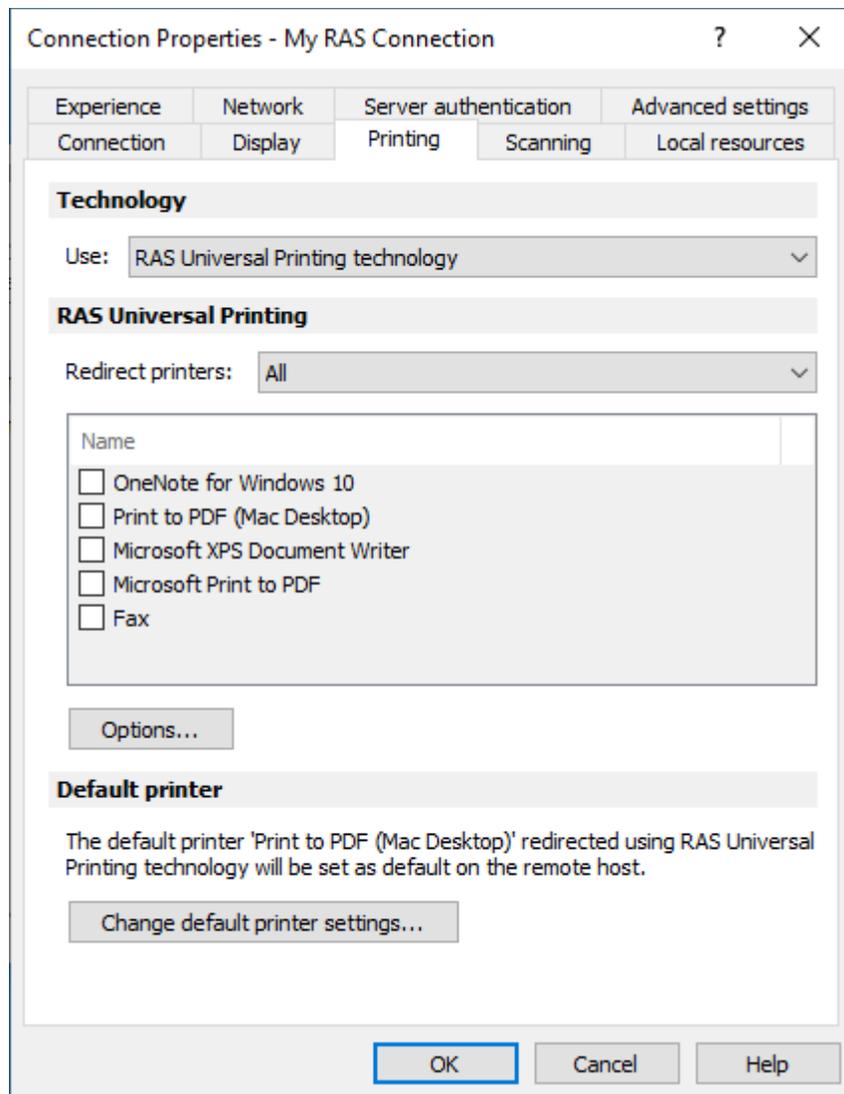
新しく接続されたディスプレイは自動的に検出されます。新しいディスプレイを強制的に検出するには、**[確認]** をクリックします。

プライマリ ディスプレイを変更するには、プライマリにしたいディスプレイを選択し、**[優先に設定]** をクリックします。

- **スマートサイズ**：スマートサイズ オプションを選択します。**[スケール (ウィンドウに合わせる)]** オプションは、リモート デスクトップが接続ウィンドウに合わせてスケーリングされます。**[サイズ変更 (解像度の更新)]** オプションは、ウィンドウサイズに応じて解像度が動的に更新されます (再接続の必要はありません)。つまり、ウィンドウのサイズを変更するとすぐに、解像度が動的に変更されます。スマートサイズ設定を無効にするには、**[無効]** を選択します。
- **ランチャー内でデスクトップを表示**：Parallels Client ウィンドウ (ランチャー) 内でリモート デスクトップを開くには、このオプションを有効にします。
- **すべてのモニターを使用してデスクトップを拡張**：公開済みデスクトップを接続されたすべてのモニターに分散して表示するには、このオプションを有効にします。
- **接続バーをフルスクリーン表示**：フルスクリーンモードでの表示方法をデフォルトで選択します (ピン留めバーを表示、ピンを外したバーを表示または表示しない)。

印刷

[印刷] タブページでは、各種の印刷オプションを構成できます。



[テクノロジー] ドロップダウン リストで、プリンターをリモート コンピューターにリダイレクトする際に使用するテクノロジーを選択します。

- **なし** : プリンター リダイレクトをしません。
- **RAS ユニバーサル プリント テクノロジー** : RAS ユニバーサル プリント テクノロジーを使用する場合は、このオプションを選択します。
- **Microsoft ベーシック プリント リダイレクト テクノロジー** : Microsoft ベーシック プリント リダイレクト テクノロジーを使用する場合は、このオプションを選択します。

- **RAS ユニバーサル プリントと MS ベーシック リダイレクト テクノロジー** : Parallels RAS と Microsoft のテクノロジーを両方使用する場合は、このオプションを選択します。

RAS ユニバーサル プリント

[RAS ユニバーサル プリント テクノロジー] を選択した場合、[リダイレクトするプリンター] ドロップダウン リストでリダイレクトするプリンターを選択します。

- **すべて** : クライアント側のすべてのプリンターがリダイレクトされます。
- **デフォルトのみ** : Windows のデフォルト プリンターのみがリダイレクトされます。
- **指定のみ** : 提供されたリストからリダイレクトするプリンターを選択します。このオプションを選択した場合にのみ、リストが有効になります。

[オプション] ボタンをクリックすると、[RAS ユニバーサル プリント オプション] ダイアログが開き、以下で説明するように追加の印刷オプションを構成できます。

[フォーマットの選択] ドロップダウン リストで、印刷するデータフォーマットを選択します。

- **Portable Document Format (PDF) で印刷** : Adobe PDF。このオプションでは、PDF 文書を印刷できるローカル アプリケーションをインストールする必要はありません。必要なすべてのライブラリは、すでに Parallels Client と共にインストールされています。

注 : このオプションは Parallels Client for ARM64 では使用できません。ただし、ネイティブ Microsoft Print to PDF リダイレクトプリンタを使用して、PDF への印刷は可能です。

- **外部アプリケーションで PDF を表示** : このオプションを使用するには、PDF 文書を表示できるローカル アプリケーションがインストールされている必要があります。サポートされないアプリケーションもありますのでご注意ください。たとえば、Windows に組み込まれている PDF ビューアーはサポートされていないため、Adobe Acrobat Reader (または同様のアプリケーション) をインストールしておく必要があります。
- **外部アプリケーションで PDF を印刷** : このオプションは、上記の [PDF の表示] オプションと同様に機能します。また、PDF 文書を印刷できるアプリケーションもローカルにインストールしておく必要があります。
- **Enhanced Meta File (EMF) 形式** : ベクター形式と組み込みフォントを使用します。
- **ビットマップ (BMP) 形式** : ビットマップ画像。

[クライアント プリンターの設定] セクションで次のいずれかを選択します。

- **すべてのプリンターにサーバーの環境設定を使用** : このオプションが選択されている場合、ユーザーがリモート アプリケーションで [印刷] をクリックすると、一般的なプリンター環境設定のダイアログが表示されます。このダイアログでは最低限のオプションのみを選択できます。
- **すべてのプリンターにクライアントの印刷設定を使用** : このオプションが選択されている場合、アプリケーションで [印刷] をクリックすると、ローカル プリンター環境設定のダイアログが表示されます。このダイアログには、ローカル コンピューターにインストールした特定のプリンターのすべてのオプションが含まれています。複数のプリンターをインストールしている場合、印刷に使用する特定のプリンターのネイティブ環境設定のダイアログが開きます。

- **次のプリンターにクライアントの印刷設定を使用**：このオプションは、ローカル コンピューターに複数のプリンターがインストールされている場合に使用できます。このオプションは、**[すべてのプリンターにクライアントの印刷設定を使用]** オプション (上記) と同様に機能しますが、どのプリンターでこのオプションを使用するかを選択できます。プリンターを選択しない場合、このリストの最初のオプションと同様に、一般的なプリンター環境設定ダイアログが使用されます。

デフォルト プリンターの設定

デフォルト プリンター設定を構成するには、**[デフォルト プリンター設定を変更]** ボタンをクリックします。

デフォルト プリンター リストには、リダイレクト可能なプリンターが表示されます。このリストには、使用可能なプリンターが使用するプリンター テクノロジーも含まれています。テクノロジーは、**[テクノロジー]** セクションで選択された設定を反映しています。たとえば、テクノロジーが **[RAS ユニバーサル プリント テクノロジー]** に設定されている場合、RAS ユニバーサル プリントを使用しているプリンターのみが一覧表示されます。

デフォルト プリンターを無効にするには、**[なし]** を選択します。クライアント側のデフォルト ローカル プリンターをリモート コンピューターにリダイレクトするには、**[<デフォルト ローカル プリンター>]** を選択します。**[<カスタム プリンター>]** を選択した場合、リモート コンピューターにインストールされている可能性のあるカスタムプリンターを指定できます。カスタム テキスト ボックスに挿入したプリンター名に一致する最初のプリンターが、リモート コンピューターでデフォルト プリンターとして設定されます。

[実際のプリンター名に合致] を選択すると、カスタム テキスト ボックスに挿入された名前が完全一致で検索されます。リモート プリンター名は、元のプリンター名と異なる場合がありますのでご注意ください。サーバーの設定またはポリシーによっては、ローカル プリンターがリダイレクトされないこともあります。

プリンターが強制的にデフォルトになる時間を指定することができます。接続が確立された後、この時間内にデフォルトのプリンターが変更された場合、そのプリンターの設定はデフォルトに戻されます。

[ローカル デフォルト プリンターの変更に合わせてリモート デフォルト プリンターを変更] オプションを選択すると、ローカル デフォルト プリンターが変更された場合にリモート デフォルト プリンターも自動的に変更されます。新規のプリンターは事前にリダイレクトする必要があります。

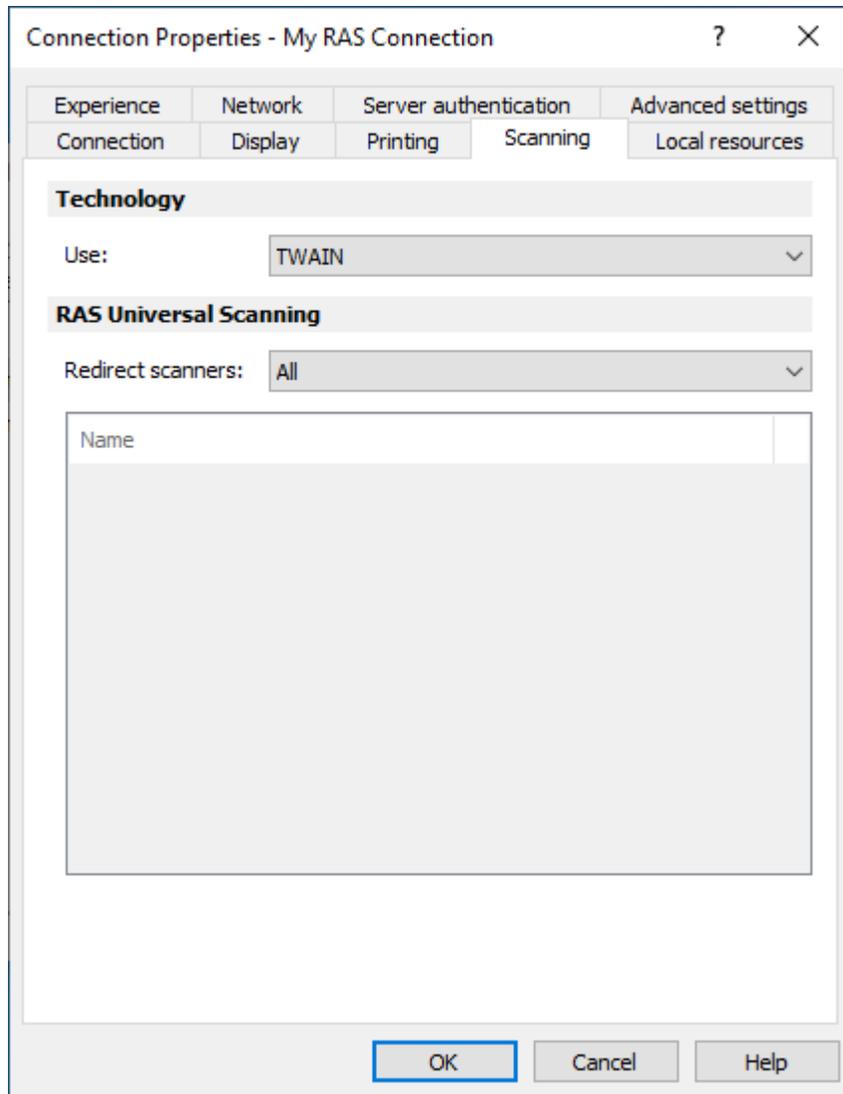
Windows 10 ユーザーへの注意

Windows 10 には、最近使用されたプリンターまたは頻繁に使用されるプリンターを自動的にデフォルトのプリンターに設定する機能があります。これにより、リモートサーバーのデフォルト プリンター設定が無効となることがあります。この問題を解決するには、Windows 10 のデフォルト プリンターの管理を無効にする必要があります。これは、IT 管理者がグループポリシーを使用して行うこともできますし、以下のようにローカルで行うこともできます。

- 1 **[スタート]** をクリックし、**[歯車]** アイコンをクリックして **[設定]** ページを開きます。
- 2 **[プリンターとスキャナー]** をクリックします。
- 3 **[Windows で通常使うプリンターを管理する]** オプションを **[オフ]** にします。
- 4 **[従量制課金接続でのダウンロード]** オプションを **[オン]** にします。

スキャン

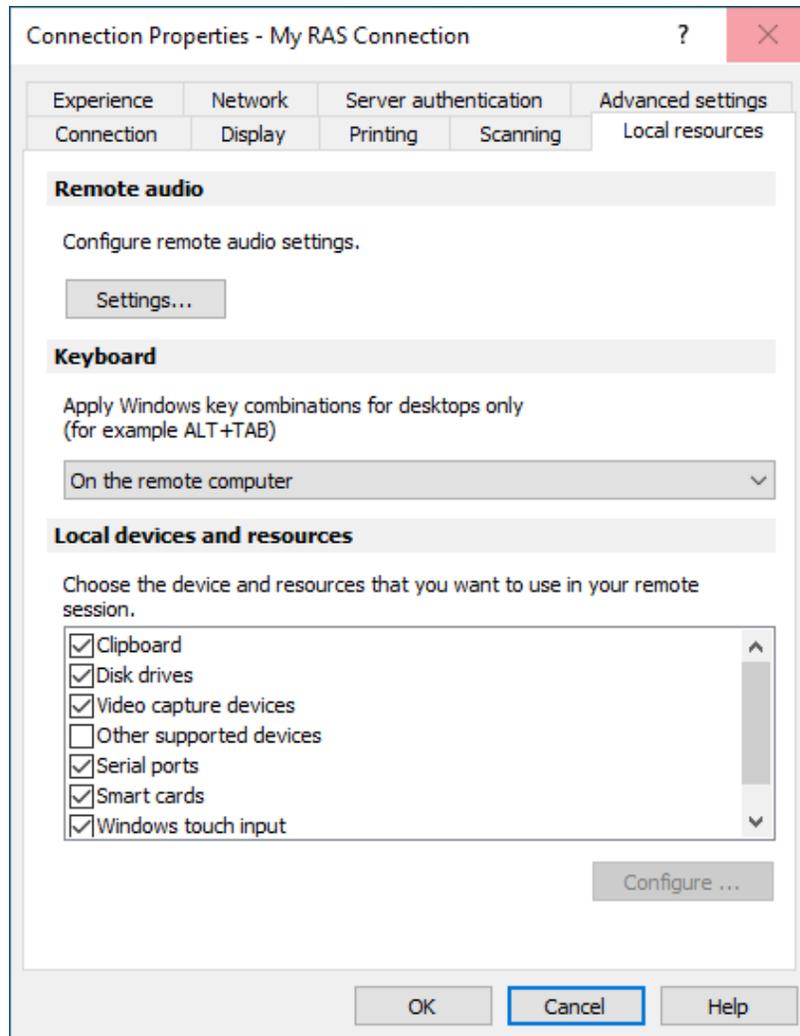
[スキャン] タブページでは、公開済みのリソースでスキャナーが必要な場合に使用する特定のスキャナーを指定できます。



- **使用**：スキャン テクノロジーを選択できます。RAS ユニバーサル スキャンでは、TWAIN または WIA リダイレクトが使用されます。これにより、アプリケーションでは、ローカル コンピューターに接続されているハードウェア タイプに応じて、どちらかのテクノロジーが使用されます。**[なし]** を選択すると、スキャンは無効になります。
- **スキャナーをリダイレクト**：コンピューターに接続されているスキャナーをリダイレクト対象として選択します。**[すべて]** (接続されているすべてのスキャナーがリダイレクトされる) または **[指定のみ]** (表示されるリストで選択したスキャナーのみがリダイレクトされる) を選択できます。

ローカル リソース

[ローカル リソース] タブページを使用して、リモート セッションでのローカル リソースの使用方法を構成します。



オーディオ

[設定] ボタンをクリックして、リモート オーディオの再生と録音のオプションを構成できます。

[リモート オーディオの再生] セクションの [ここ] のドロップダウンリストを使用して、以下のリモート オーディオ再生オプションのいずれかを選択します。

- **このコンピューターで再生する** : リモート コンピューターからのオーディオがローカル コンピューターで再生されます。
- **再生しない** : リモート コンピューターからのオーディオがローカル コンピューターで再生されず、リモート コンピューターでもミュートされます。

- **リモート コンピューターで再生する**：オーディオはローカル コンピューターでは再生されませんが、リモート コンピューター上では通常どおりに再生されます。

音質を調整するには、**[品質]** ドロップダウンリストを使用します。

- **利用可能な帯域幅に基づいて動的に調整**：このオプションでは、接続速度に応じて音質が上下します。接続が速いほど高い音質設定が使用されます。
- **常に中程度の音質を使用**：音質は中程度のレベルに固定されます。このオプションでは、最高の音質を必要とせず、利用可能な帯域幅をむしろグラフィックに使用する場合に使用されます。
- **常に非圧縮の音質を使用**：音質は最高のレベルに固定されます。接続が非常に高速で、可能な限り最高の音質が必要な場合は、このオプションを選択します。

[録音を有効化 (該当する場合)] オプションでは、リモート コンピューターでオーディオの録音を有効にできます。たとえば、ローカル コンピューターでマイクに向かって話し、リモート コンピューター上の録音アプリケーションを使用して自分の声を録音できます。

キーボード

キーボードで押すキーの組み合わせ (Alt+Tab など) を適用する方法を選択します。

- **ローカル コンピューター上**：キーの組み合わせはローカル コンピューター上で実行されている Windows に適用されます。
- **リモート コンピューター上**：キーの組み合わせはリモート コンピューター上で実行されている Windows に適用されます。
- **フルスクリーンモードのみ**：キーの組み合わせは、フルスクリーンモードのときのみリモート コンピューターに適用されます。

ローカル デバイスおよびリソース

リモート コンピューターにリダイレクトするローカル ディスク ドライブ、デバイス、およびその他のリソースを選択します。リソースをリダイレクトすると、リモート セッションで使用できるようになります。たとえば、リダイレクトされたローカル ディスク ドライブはリモート アプリケーションで使用できるため、読み取りと書き込みを行うことができます。

次のオプションを使用できます。

- **クリップボード**：リモート セッションでクリップボードを有効にするには、このオプションを選択します。**[構成する]** ボタンをクリックし、**[双方向]** (双方向にコピーできます)、**[サーバーからクライアントのみ]**、**[クライアントからサーバーのみ]** のいずれかからクリップボードのリダイレクトを選択します。
- **ディスクドライブ**：このオプションを選択し、**[構成する]** をクリックします。開いたダイアログで、リダイレクトするローカル ドライブを選択します。**[後で接続するディスクドライブも使用する]** オプションを選択する場合、後でローカルマシンに接続するディスク ドライブはリモート セッションで自動的に利用できるようになります。ドライブのリダイレクト キャッシュを有効にするオプションを使用すると、リダイレクトされたドライブでのファイル閲覧やナビゲーションがより高速になります。

- **無効**：ドライブ リダイレクト キャッシュを無効にする。
- **有効**：ドライブ リダイレクト キャッシュが有効になる。
- **高速モード**：上記と同じですが、ファイルエクスプローラーの特定の装飾機能が無効化され、閲覧速度が向上します。このオプションは、Windows 用 Parallels Client でのみサポートされます。
- **ビデオ キャプチャ デバイス**：ビデオ キャプチャ デバイスを指定して、ユーザーデバイスからリモート セッションにリダイレクトします。これは高レベルのリダイレクトであり、マイク付きのウェブカメラなどの複合 USB デバイスをリダイレクトできます。このオプションを選択して **[構成する]** をクリックすると、ダイアログが開き、特定のデバイスを選択するか、次のオプションのいずれかを選択できます。**[使用できるすべてのデバイスを使用する]** - 現在接続されているすべてのデバイスが使用されます。**[後で接続するデバイスも使用する]** - セッションの開始後に接続されるデバイスも使用されます。
- **その他のサポートされているデバイス**：このオプションを選択し、**[構成する]** をクリックします。ローカル コンピューターに現在接続されているデバイスがリストに表示されます。これには、サポートされているプラグ アンド プレイ デバイス、メディア転送プロトコル (MTP) に基づくメディアプレーヤー、および画像転送プロトコル (PTP) に基づくデジタルカメラが含まれます。デバイスがコンピューターに接続されているがリストに表示されない場合は、サポートされているプラグ アンド プレイ デバイスではないことを意味します。ディスクドライブとスマートカードはこのリストから除外されていることに注意してください (専用の **[ディスクドライブ]** と **[スマートカード]** のオプションを使用してリダイレクトします)。**[以前に接続されたデバイスを表示]** オプションは、現在接続されていないが以前に接続されたデバイスを表示します。
- **シリアルポート**：シリアルポートをリダイレクトするには、このオプションを選択します。
- **スマートカード**：スマートカードをリダイレクトするには、このオプションを選択します。
- **ペンとタッチ入力**：Windows タッチ入力リダイレクトを有効または無効にします。Windows のタッチ入力をリダイレクトすると、ユーザーはタッチ対応デバイスから、タッチ、ホールド、リリースの操作といった Windows のネイティブのタッチジェスチャーを使用できます。これらの操作は、リモート アプリケーションやデスクトップに、対応するマウスクリックとしてリダイレクトされます。このオプションを使用すると、アプリの互換性の問題が発生した場合に、タッチ入力のリダイレクトを無効化できます。
- **AVD 用マルチ メディア リダイレクト**：リモートの Azure Virtual Desktop ホスト上のブラウザで再生されるビデオコンテンツを視聴できるようにします。

注：このポリシーは、Windows 10 1909 以降、および Windows 11 の Parallels Client に適用されます。

注：Azure Virtual Desktop でのマルチ メディア リダイレクトは、現在プレビュー中です。マルチ メディア リダイレクトに対応している Web サイトの一覧は、以下を参照してください。<https://learn.microsoft.com/en-us/azure/virtual-desktop/multimedia-redirect-intro>。

エクスペリエンス

[エクスペリエンス] タブページでは、接続速度を微調整して、リモートサーバーとの接続のパフォーマンスを最適化できます。

ドロップダウン リストで、接続速度を選択します。

- わからない場合は、**[接続品質を自動的に検出]** オプションを選択します。このオプションを選択すると、**[圧縮の有効化]** を除く他のすべてのオプションが無効になり、Parallels Client が Parallels RAS に接続されたときの実際の接続速度に基づいて自動的に構成されることに注意してください。
- 特定の速度 (LAN 10 Mbps 以上など) を選択する場合は、目的のユーザー エクスペリエンス オプションを選択します。

通常、100 Mbps 以上のローカル ネットワーク上でリモート コンピューターに接続する場合、すべてのエクスペリエンス オプションをオンにしておいたほうが安全です。それ以外の場合は、必要なオプションのみを選択してください。

[圧縮の有効化] オプションを選択して、圧縮を有効にしてより効率的な接続を確立することもお勧めします。

ウィンドウのサイズ変更 / 移行の最適化：リモート アプリケーション ウィンドウを移動またはサイズ変更しているときにグラフィックス アーチファクト (暗い色の正方形) が表示される場合は、このオプションを有効にします。この問題は、リモート アプリケーションが Windows Server 2012 または 2016 にホストされているときに、**[ドラッグ時にウィンドウの内容を表示]** オプションが有効なときに発生する場合があります。

ネットワーク

Parallels RAS への接続にプロキシサーバーを使用している場合は、**[ネットワーク]** タブページを使用してプロキシサーバーを構成します。

プロキシサーバーを構成するには、**[プロキシサーバーを使用]** オプションを選択し、次のリストからプロトコルを選択します。

- **SOCKS 4**：ネットワーク ファイアウォールのサービスを透過的に使用するには、このオプションを有効にします。
- **SOCKS 4 A**：接続できないクライアントが宛先ホストの名前を解決してホスト名を指定できるようにするには、このオプションを有効にします。
- **SOCKS 5**：認証を使用して接続できるようにするには、このオプションを有効にします。
- **HTTP 1.1**：標準の HTTP 1.1 プロトコル接続を使用して接続するには、このオプションを有効にします。

プロキシホストのドメイン名または IP アドレスとポート番号を指定します。SOCKS 5 および HTTP 1.1 プロトコルの場合、**[プロキシ認証が必要]** を選択し、ユーザーの資格情報を入力します。

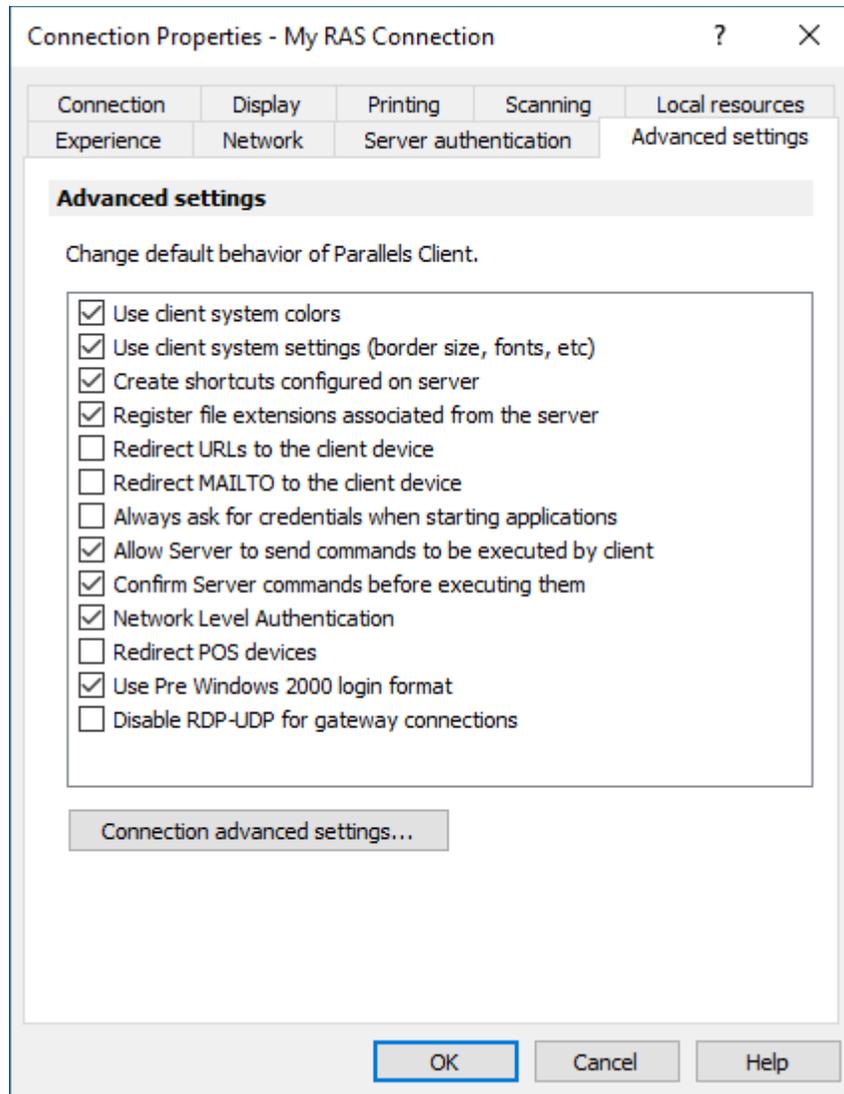
サーバー認証

[サーバー認証] タブページを使用して、サーバー認証が失敗した場合の対応を指定します。**[認証に失敗した場合]** ドロップダウン リストで、以下のいずれかのオプションを選択します。

- **接続**：ユーザーは、サーバーの認証情報を無視して、接続を続けることができます。
- **警告**：ユーザーは認証情報について警告を受けますが、接続するかどうかを選択することができます。
- **接続しない**：ユーザーは接続できません。

詳細設定

[詳細設定] タブページでは、デフォルトの動作または Parallels Client をカスタマイズできます。



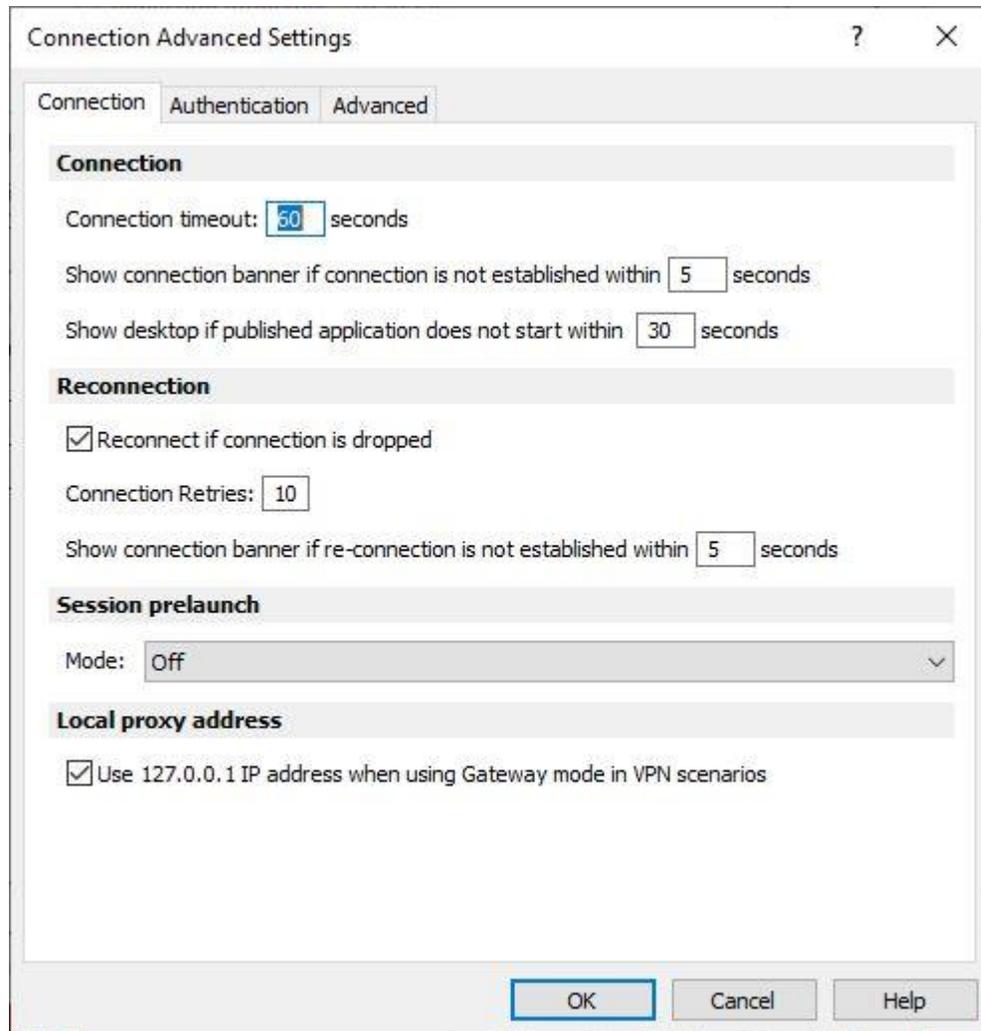
次のプロパティを指定できます。

- **クライアントのシステムカラーを使用**：リモート デスクトップで指定されているカラーではなく、クライアントのシステムカラーを使用する場合は、このオプションを有効にします。
- **クライアントのシステム設定を使用**：ターミナルサーバーで指定されている設定ではなく、クライアントのシステム設定を使用する場合は、このオプションを有効にします。
- **サーバーで設定されたショートカットを作成**：公開されたアプリケーションごとに、管理者はクライアントのデスクトップおよびスタートメニューに作成できるショートカットを構成できます。ショートカットを作成するには、このオプションをオンにします。ショートカットを作成しない場合は、このオプションをオフにします。

- **サーバーで関連付けられたファイル拡張子を登録**：公開されたアプリケーションごとに、管理者はファイル拡張子の関連付けを作成できます。このオプションを使用して、関連付けられたファイル拡張子を登録するかどうかを指定します。
- **クライアント デバイスに URL をリダイレクト**：'http:' リンクを開くときにローカルのウェブブラウザを使用する場合は、このオプションを有効にします。
- **クライアント デバイスに MAILTO をリダイレクト**：'mailto:' リンクを開くときにローカルのメールクライアントを使用する場合は、このオプションを有効にします。
- **アプリケーションを起動する際に、常に認証を要求**：このオプションを有効にすると、ユーザーはアプリケーションの起動時に資格情報を入力するように求められます。
- **クライアントで実行されるコマンドをサーバーが送ることを許可**：サーバーから受け取るコマンドをクライアントが実行できるようにするには、このオプションを有効にします。
- **実行する前にサーバー コマンドを確認**：このオプションが有効になっている場合は、コマンドがサーバーから実行される前にコマンドを確認するメッセージが、クライアントに表示されます。
- **ネットワーク レベル認証**：ネットワークレベルの認証を有効にするには、このオプションをオンにします。この場合、クライアントは、サーバーへの接続前に認証を行う必要があります。
- **POS デバイスをリダイレクト**：ローカル コンピューターに接続されているバーコードスキャナーや磁気読取装置などの Point of Service (POS) デバイスを、リモート接続で使用できるようにします。
- **Windows 2000 より前のログインフォーマットを使用**：このオプションが選択されている場合は、レガシー (Windows 2000 より前) のログイン形式を使用できます。
- **ゲートウェイ接続の RDP-UDP を無効する**：ゲートウェイを介して接続する場合は、UDP トランスポートを無効にします。

接続の詳細設定

[接続の詳細設定] ボタンをクリックして、追加の設定を構成します。



[接続] タブ :

- **接続タイムアウト** : 接続が中止されるまで、クライアントが Parallels RAS への接続を試行する時間。接続が確立されている間、接続バナーが表示されます。
- **接続が確立されない場合にバナーを表示するまでの時間** : 接続バナーが表示されるまでの時間を秒単位で指定します。
- **アプリケーションに接続できない場合にデスクトップを表示するまでの時間** : このフィールドで指定された期間内に公開されたアプリケーションが起動されない場合、サーバーのデスクトップがロードされます。これは、アプリケーションの起動中にサーバーでエラーが発生した場合に役立ちます。サーバーのデスクトップをロードすることにより、エラーを確認できます。
- **接続が切れた場合、再接続する** : このオプションを選択し、[接続リトライ回数] を設定します。接続が切断されると、Parallels Client は自動的に再接続を試みます。
- **再起動セッション** : セッションの事前起動を有効にします。これにより、リモート アプリケーションの起動が速くなります。[モード] ドロップダウン リストを使用して、[ベーシック] または [マシン ラーニング] を選択します。[ベーシ

ック] を選択すると、[Parallels Client] がアプリケーションリストを取得したときにセッションが開始されます。アプリケーションを開始する前にセッションが開始されるため、アプリを開くのにかかる時間が短縮されます。この接続でベーシックモードが機能し始めるには、ベーシックモードを有効にしてから、この接続を使用して少なくとも 15 分間アプリケーションを実行する必要があることに注意してください。これは、アクティブに使用されていない接続でのセッションの事前起動を防ぐためです。

[**マシン ラーニング**] オプションは、アプリケーションを開始する習慣を記録および分析し、通常、特定の曜日にアプリケーションを開く数分前にセッションを事前に起動します。

- [ローカル プロキシアドレス] : このセクションの設定は、ローカル RDP プロキシをバインドする IP アドレスを指定します。[VPN のシナリオでゲートウェイ モードを使用する場合は、IP アドレス 127.0.0.1 を使用する] オプションを選択します。この設定は有効にしておく必要があります。これを無効にすると、VPN を使用しているときにユーザーがアプリケーションやデスクトップを開くことができなくなる可能性があります。

[**認証**] タブ :

このタブのオプションは、認証タイプとして [Web] が選択されている場合に使用されます。

- **ブラウザ モード** : Parallels Client に組み込まれているブラウザまたはホスト コンピューターにインストールされているブラウザのどちらを使用して Web 認証ページを開くかを選択します。
- **外部ブラウザ** : Web 認証ページを開くブラウザを選択します。
- **シークレット モードでブラウザを開く** : 選択した外部ブラウザをシークレット モードで開くには、このオプションを選択します。
- **ブラウザ ウィンドウを開いてログアウトを完了** : このオプションを選択すると、内蔵ブラウザで SAML ログアウト ダイアログが開きます。
- **最後に使用した方法を記憶する** : このオプションを選択すると、最後に使用した MFA 認証方法が記憶され、既定で使用されます。

管理者向けのメモ : Parallels RAS Console 19.3 以降を使用しているときに内蔵ブラウザで Web 認証ページを表示するには、Parallels RAS Client for Windows 19.3 以降を使用してください。

[**詳細**] タブ

- **コンピューター名の上書き** : リモート デスクトップ セッション中にコンピューターが使用する名前を指定します。設定すると、デフォルトのコンピューター名が上書きされます。サーバー側で管理者が設定したフィルタリングは、[コンピューター名を上書き] を使用します。

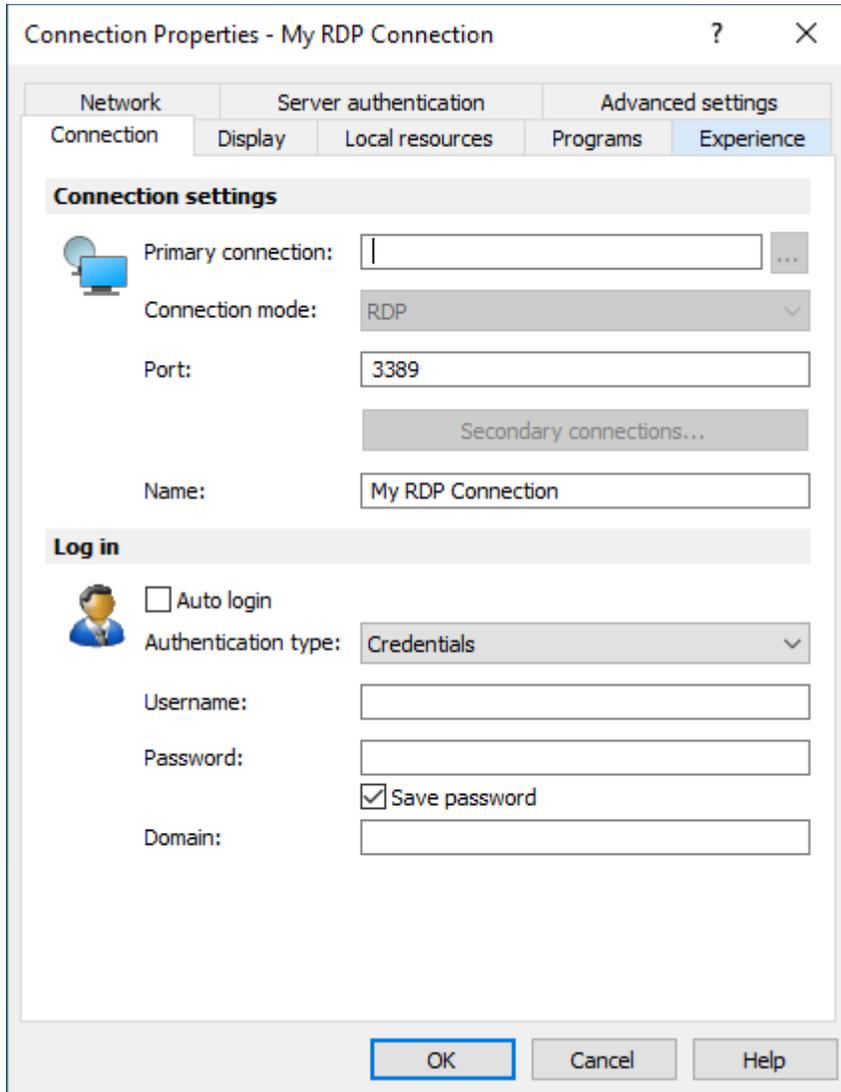
RDP 接続の構成

既存の標準 RDP 接続のプロパティを変更するには、Parallels Client のメインウィンドウで既存の接続を右クリックし、コンテキストメニューから **[接続プロパティ]** をクリックします。**[接続プロパティ]** ダイアログが表示されます。ダイアログ内のプロパティは、タブページを使用して機能ごとにグループ化されています。以下のサブセクションでは、各タブページの詳細を説明します。

- 接続 (p. 41)
- ディスプレイ (p. 43)
- ローカル リソース (p. 45)
- プログラム (p. 47)
- エクスペリエンス (p. 47)
- ネットワーク (p. 48)
- サーバー認証 (p. 48)
- 詳細設定 (p. 49)

接続

[接続] タブページでは、接続設定とログイン情報を指定できます。



[接続設定] セクションでは、以下のプロパティを指定します。

- 1 [プライマリ接続] フィールドで、リモート コンピューターのホスト名または IP アドレスを指定します。
- 2 [ポート] フィールドには、RDP 接続の標準ポートである TCP ポート 3389 が指定されています。リモート コンピューターでポート番号が変更された場合は、この値を変更することができます。
- 3 [名称] フィールドで、任意の名前を選択して入力します。これにより、後で Parallels Client でサーバーを簡単に識別することができます。

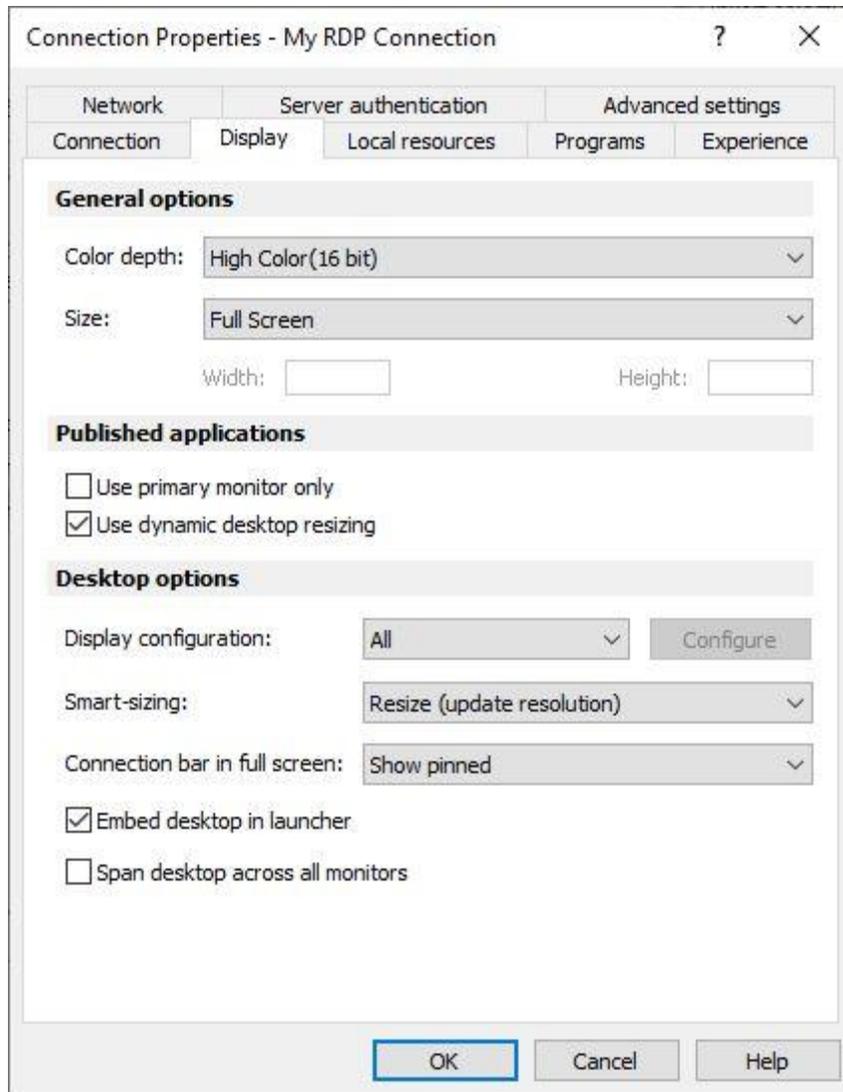
[ログオン] セクションで、以下のプロパティを指定します。

- 1 **[自動ログイン]** オプションを選択すると、Parallels Client が起動時に (この接続を使用して) 自動的に接続できるようになります。
- 2 **[認証タイプ]** ドロップダウン リストで、目的の認証方法を選択します。
 - **認証情報** : このオプションを選択してから、ユーザー名とパスワードおよびドメイン情報を入力します。指定された認証情報を使用して、リモートサーバーで認証されます。
 - **スマートカード** : スマートカードを使用して認証するには、このオプションを選択します。リモートサーバーに接続するときは、スマートカードをカードリーダーに挿入し、要求されたときに PIN を入力します。
 - **シングル サインオン** : Parallels Client のインストール時にシングル サインオン モジュールをインストールした場合のみ、このオプションがリストに含まれます。ローカル システムの資格情報を使用してリモートサーバーに接続するには、このオプションを選択します。
 - **ウェブ** : SAML SSO 認証を使用するには、このオプションを選択します。

管理者への注意: 許可された認証タイプを RAS コンソールの [接続 / 認証] で指定する必要があります。

ディスプレイ

[ディスプレイ] タブページでは、表示オプションを構成できます。



[通常オプション] セクションで、色深度や画面サイズなどの一般的な表示プロパティを指定します。カスタム画面サイズを指定する場合は、ドロップダウン リストで **[カスタム]** を選択し、**[幅]** フィールドと **[高さ]** フィールドを使用してサイズを指定します。

コンピューターに複数のモニターが接続されている場合は、**[デスクトップ接続にすべてのモニターを使用]** オプションを選択して、すべてのモニターを使用してリモート デスクトップを表示することができます。

[デスクトップ オプション] を以下のように指定します。

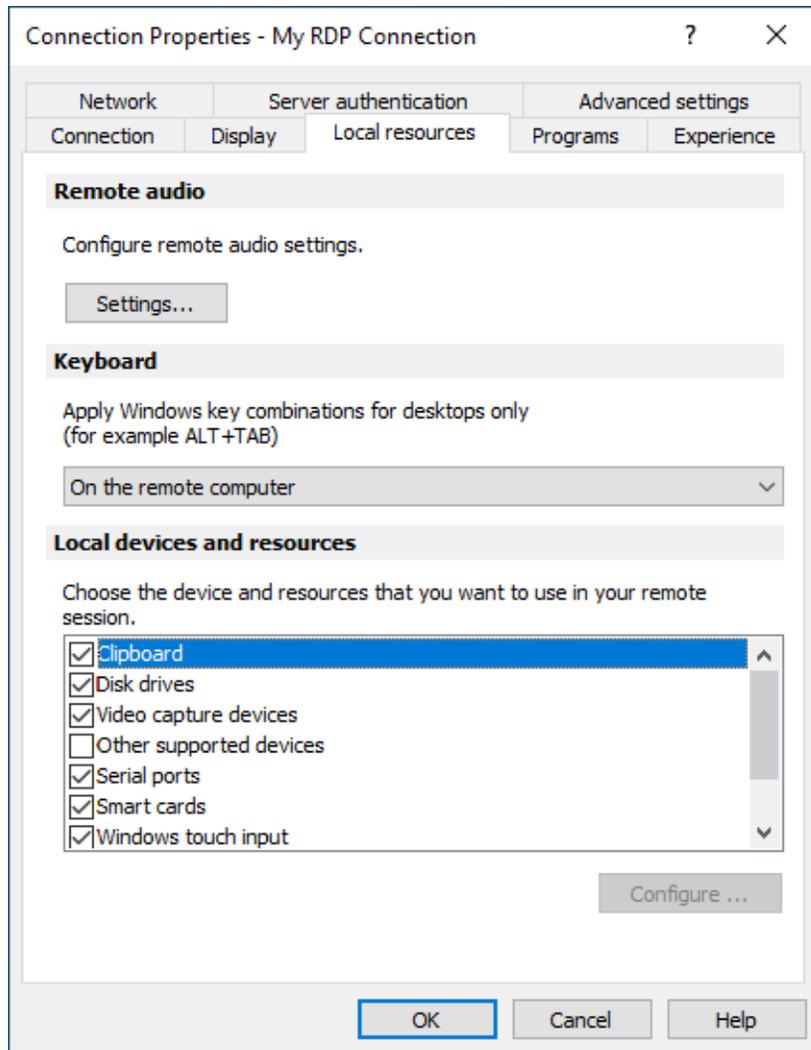
- **ディスプレイの設定** : 公開されたリソースをどのモニターで表示するかを選択します。以下のオプションが用意されています。
 - **すべて** : すべて表示します。
 - **プライマリ** : プライマリディスプレイは、以下のように変更できます。
 - **ディスプレイ選択** : 1 つまたは複数のディスプレイを手動で選択します。ディスプレイを選択するには、このオプションを選択し、**[設定]** をクリックします。ディスプレイに対応する番号を確認するには、**[確認]** をクリックします。

新しく接続されたディスプレイは自動的に検出されます。新しいディスプレイを強制的に検出するには、**[確認]** をクリックします。

プライマリディスプレイを変更するには、プライマリにしたいディスプレイを選択し、**[優先に設定]** をクリックします。
- **スマートサイズ** : スマートサイズ オプションを選択します。**[スケール (ウィンドウに合わせる)]** オプションは、リモート デスクトップが接続ウィンドウに合わせてスケーリングされます。**[サイズ変更 (解像度の更新)]** オプションは、ディスプレイの解像度に応じて解像度が動的に更新されます (再接続の必要はありません)。スマートサイズ設定を無効にするには、**[無効]** を選択します。
- **ランチャー内でデスクトップを表示** : Parallels Client 内で公開されたデスクトップにアクセスするには、このオプションを有効にします。
- **すべてのモニターを使用してデスクトップを拡張** : 公開済みデスクトップを接続されたすべてのモニターに分散して表示するには、このオプションを有効にします (複数ある場合)。
- **接続バーをフルスクリーン表示** : フルスクリーンモードでの表示方法をデフォルトで選択します (ピン留めバーを表示、ピンを外したバーを表示または表示しない)。

ローカル リソース

[ローカル リソース] タブページを使用して、リモート セッションでのローカル リソースの使用方法を構成します。



オーディオ

[設定] ボタンをクリックして、リモート オーディオの再生と録音のオプションを構成できます。

[リモート オーディオの再生] セクションの [ここで、] のドロップダウン リストで、以下のリモート オーディオ再生オプションのいずれかを選択します。

- **このコンピューターで再生する**：リモート コンピューターからのオーディオがローカル コンピューターで再生されます。
- **再生しない**：リモート コンピューターからのオーディオがローカル コンピューターで再生されず、リモート コンピューターでもミュートされます。

- **リモート コンピューターで再生する**：オーディオはローカル コンピューターでは再生されませんが、リモート コンピューター上では通常どおりに再生されます。

音質を調整するには、**[品質]** ドロップダウンリストを使用します。

- **利用可能な帯域幅に基づいて動的に調整**：このオプションでは、接続速度に応じて音質が上下します。接続が速いほど高い音質設定が使用されます。
- **常に中程度の音質を使用**：音質は中程度のレベルに固定されます。このオプションでは、最高の音質を必要とせず、利用可能な帯域幅をむしろグラフィックに使用する場合に使用されます。
- **常に非圧縮の音質を使用**：音質は最高のレベルに固定されます。接続が非常に高速で、可能な限り最高の音質が必要な場合は、このオプションを選択します。

[録音を有効化 (該当する場合)] オプションでは、リモート コンピューターでオーディオの録音を有効にできます。たとえば、ローカル コンピューターでマイクに向かって話し、リモート コンピューター上の録音アプリケーションを使用して自分の声を録音できます。

キーボード

キーボードで押すキーの組み合わせ (Alt+Tab など) を適用する方法を選択します。

- **ローカル コンピューター上**：キーの組み合わせはローカル コンピューター上で実行されている Windows に適用されます。
- **リモート コンピューター上**：キーの組み合わせはリモート コンピューター上で実行されている Windows に適用されます。
- **フルスクリーン モードのみ**：キーの組み合わせは、フルスクリーンモードのときのみリモート コンピューターに適用されます。

ローカル デバイス

リモート コンピューターにリダイレクトするローカル ディスク ドライブ、デバイス、およびその他のリソースを選択します。リソースをリダイレクトすると、リモート セッションで使用できるようになります。たとえば、リダイレクトされたローカルディスク ドライブはリモート アプリケーションで使用できるため、読み取りと書き込みを行うことができます。

以下のオプションを使用できます。

- **クリップボード**：リモート セッションでローカル クリップボードを有効にするには、このオプションを選択します。
- **ディスクドライブ**：このオプションを選択し、**[構成する]** をクリックします。開いたダイアログで、リダイレクトするローカルドライブを選択します。**[後で接続するディスクドライブも使用する]** オプションを選択する場合、後でローカル マシンに接続するディスクドライブはリモート セッションで自動的に利用できるようになります。また、**[キャッシュ]** オプションを使用すると、リダイレクトされたドライブでのファイル閲覧やナビゲーションをより高速に行うことができます。
 - **無効**：ドライブ リダイレクト キャッシュが無効になります。
 - **有効**：ドライブ リダイレクト キャッシュが有効になります。

- **高速モード**：上記と同じですが、ファイルエクスプローラの特定の装飾機能が無効になり、高速なブラウジングが可能になります。
- **ビデオ キャプチャ デバイス**：ビデオ キャプチャ デバイスを指定して、ユーザーデバイスからリモート セッションにリダイレクトします。これは高レベルのリダイレクトであり、マイク付きのウェブカメラなどの複合 USB デバイスをリダイレクトできます。このオプションを選択して **[構成する]** をクリックすると、ダイアログが開き、特定のデバイスを選択するか、次のオプションのいずれかを選択できます。**[利用できるすべてのデバイスを使用する]** - 現在接続されているすべてのデバイスが使用されます。**[後で接続するデバイスも使用する]** - セッションの開始後に接続されるデバイスも使用されます。
- **その他のサポートされているデバイス**：このオプションを選択し、**[構成する]** をクリックします。ローカル コンピューターに現在接続されているデバイスがリストに表示されます。これには、サポートされているプラグ アンド プレイ デバイス、メディア転送プロトコル (MTP) に基づくメディアプレーヤー、および画像転送プロトコル (PTP) に基づくデジタルカメラが含まれます。デバイスがコンピューターに接続されているがリストに表示されない場合は、サポートされているプラグ アンド プレイ デバイスではないことを意味します。ディスクドライブ、プリンター、スマートカードはこのリストから除外されていることに注意してください (専用の**[ディスクドライブ]**、**[プリンター]**、**[スマートカード]** のオプションを使用してリダイレクトします)。**[以前に接続されたデバイスを表示]** オプションは、現在接続されていないが以前に接続されたデバイスを表示します。
- **シリアルポート**：シリアルポートをリダイレクトするには、このオプションを選択します。
- **スマートカード**：スマートカードをリダイレクトするには、このオプションを選択します。
- **プリンター**：ローカル プリンターをリダイレクトするには、このオプションを選択します。

プログラム

[プログラム] タブページでは、リモート コンピューターとの接続を確立したときにリモート コンピューターで自動的に開始されるプログラムを指定できます。**[接続後に次のプログラムを起動]** オプションを選択し、**[プログラムのパスとファイル名]** を指定して、必要に応じて **[次のフォルダーで起動する]** オプションを選択します。

エクスペリエンス

[エクスペリエンス] タブページでは、接続速度を微調整して、リモートサーバーとの接続のパフォーマンスを最適化できます。

ドロップダウン リストで、接続速度を選択します。

- わからない場合は、**[接続品質を自動的に検出]** オプションを選択します。このオプションを選択すると、**[圧縮の有効化]** を除く他のすべてのオプションが無効になり、Parallels Client が Parallels RAS に接続されたときの実際の接続速度に基づいて自動的に構成されることに注意してください。
- 特定の速度 (LAN 10 Mbps 以上など) を選択する場合は、目的のユーザー エクスペリエンス オプションを選択します。通常、100 Mbps 以上のローカル ネットワーク上でリモート コンピューターに接続する場合、すべてのエクスペリエンス オプションをオンにしておいたほうが安全です。それ以外の場合は、必要なオプションのみを選択してください。

[圧縮の有効化] オプションを選択して、より効率的な接続を行うために圧縮を有効にすることもお勧めします。

ウィンドウのサイズ変更 / 移行の最適化：リモート デスクトップ ウィンドウを移動またはサイズ変更しているときにグラフィックス アーチファクト (暗い色の正方形) が表示される場合は、このオプションを有効にします。この問題は、リモート デスクトップが Windows Server 2012 または 2016 であり、**[ドラッグ時にウィンドウの内容を表示]** オプションが有効なときに発生する場合があります。

ネットワーク

リモート コンピューターへの接続にプロキシサーバーを使用している場合は、**[ネットワーク]** タブページを使用してプロキシサーバーを構成します。

プロキシサーバーを構成するには、**[プロキシサーバーを使用]** オプションを選択し、以下のリストからプロトコルを選択します。

- **SOCKS 4**：ネットワーク ファイアウォールのサービスを透過的に使用するには、このオプションを有効にします。
- **SOCKS 4 A**：接続できないクライアントが宛先ホストの名前を解決してホスト名を指定できるようにするには、このオプションを有効にします。
- **SOCKS 5**：認証を使用して接続できるようにするには、このオプションを有効にします。
- **HTTP 1.1**：標準の HTTP 1.1 プロトコル接続を使用して接続するには、このオプションを有効にします。

プロキシホストのドメイン名または IP アドレスとポート番号を指定します。

SOCKS 5 および HTTP 1.1 プロトコルの場合、**[プロキシ認証が必要]** を選択し、ユーザーの資格情報を入力します。

サーバー認証

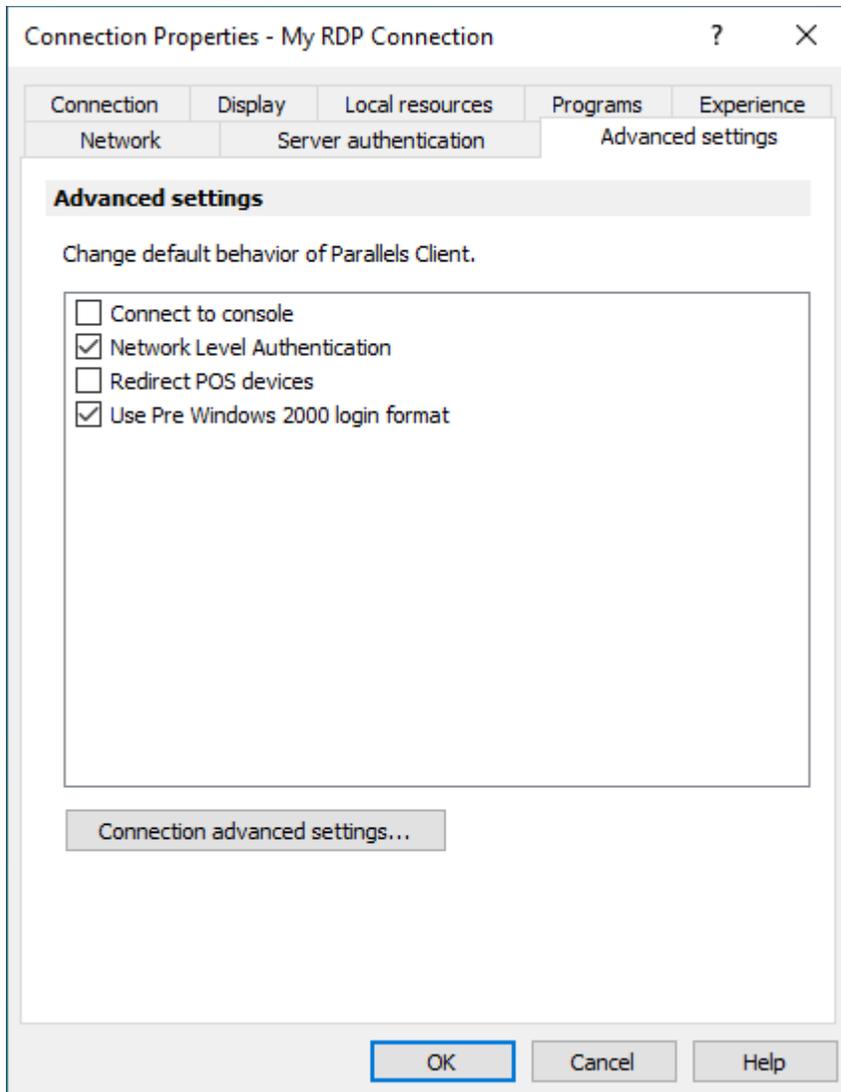
[サーバー認証] タブページを使用して、サーバー認証が失敗した場合の対応を指定します。

[認証に失敗した場合] ドロップダウン リストで、以下のいずれかのオプションを選択します。

- **接続**：ユーザーは、サーバーの認証情報を無視して、接続を続けることができます。
- **警告**：ユーザーは認証情報について警告を受けますが、接続するかどうかを選択することができます。
- **接続しない**：ユーザーは接続できません。

詳細設定

[詳細設定] タブページでは、Parallels Client の既定の動作を変更できます。



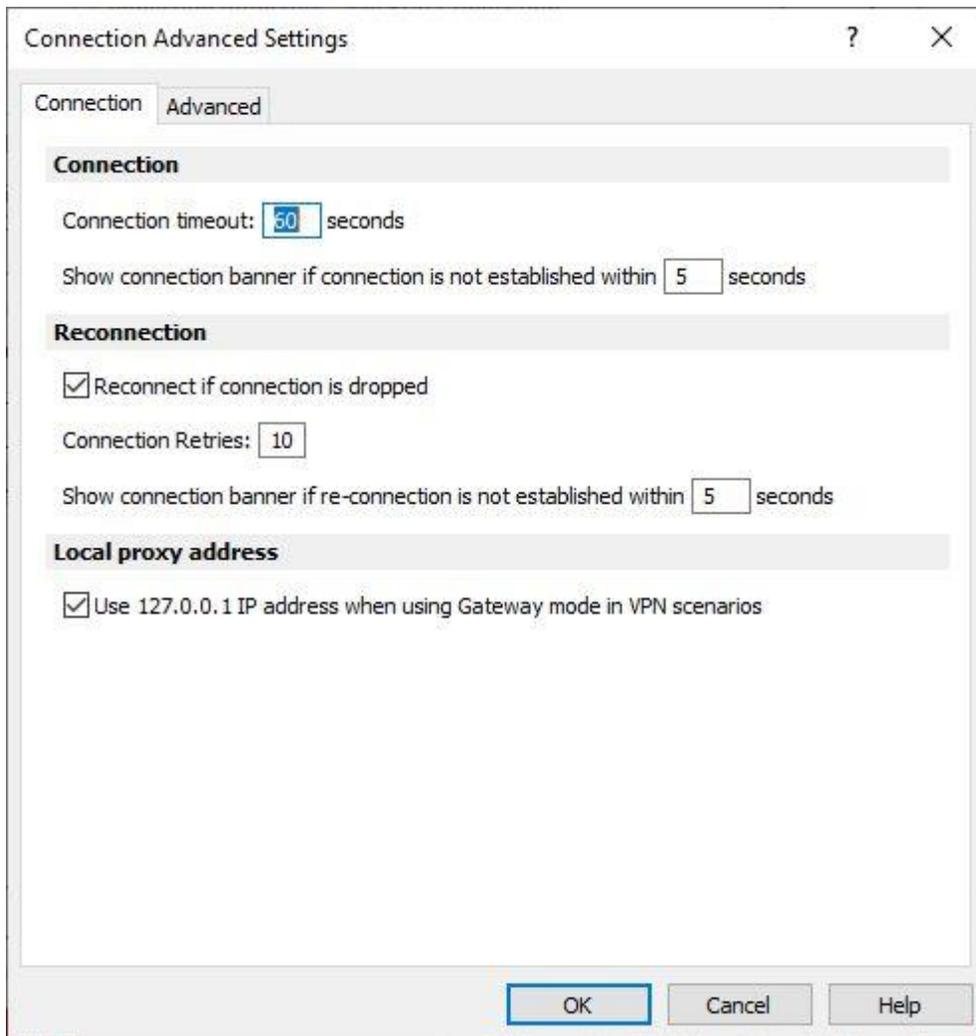
以下のプロパティを指定できます。

- **コンソールに接続**：このオプションは、リモート デスクトップ セッションホスト サーバーの管理に使用されます。コマンドラインから `/admin` オプションを指定して標準的なリモート デスクトップ接続を開始した場合と同じように動作します。
- **ネットワークレベル認証**：ネットワークレベルの認証を有効にするには、このオプションをオンにします。この場合、クライアントは、サーバーへの接続前に認証を行う必要があります。

- **POS デバイスをリダイレクト** : ローカル コンピューターに接続されているバーコード スキャナーや磁気読取装置などの Point of Service (POS) デバイスを、リモート接続で使用できるようにします。
- **Windows 2000 より前のログイン フォーマットを使用** : このオプションが選択されている場合は、レガシー (Windows 2000 より前) のログイン フォーマットを使用できます。

接続の詳細設定

[接続の詳細設定] ボタンをクリックして、追加の設定を行います。



[接続] タブ

- **接続タイムアウト** : 接続が中止されるまで、Parallels Client がリモート コンピューターへの接続を試行する時間。接続が確立されている間、接続バナーが表示されます。

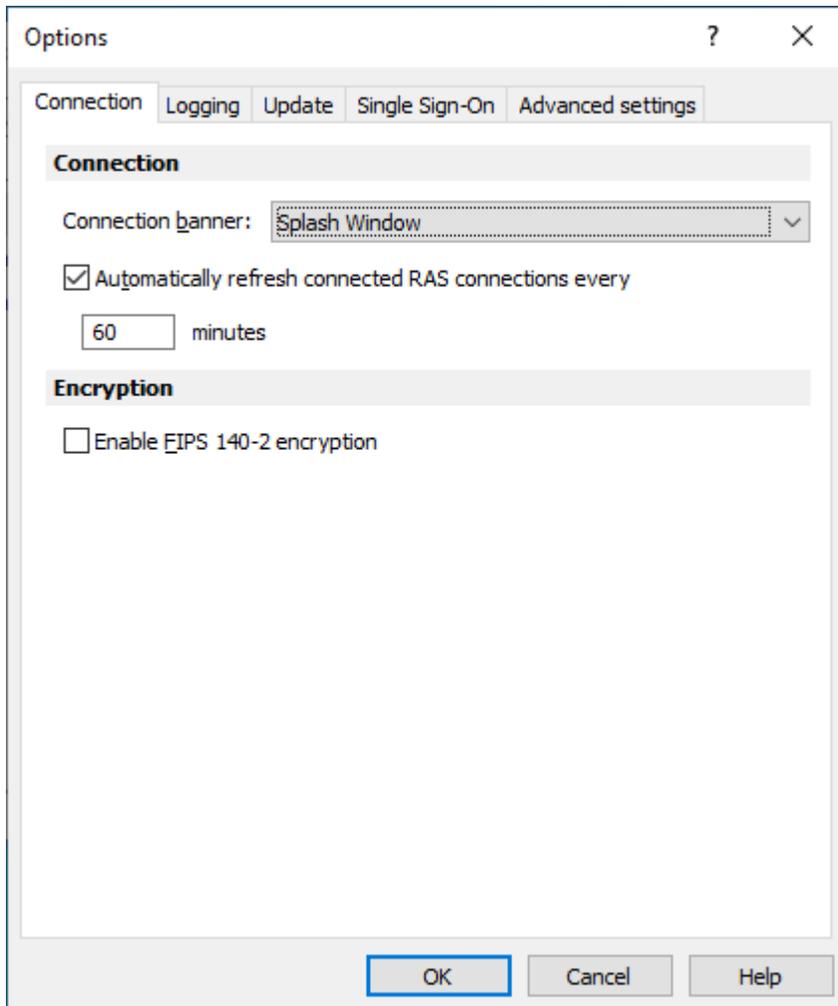
- **接続が確立されない場合にバナーを表示するまでの時間**：接続バナーが表示されるまでの時間を秒単位で指定します。
- **接続が切れた場合、再接続する**：このオプションを選択し、**[接続の再試行]** 回数を設定します。接続が切断されると、Parallels Client は自動的に再接続を試みます。
- **再接続が確立されない場合にバナーを表示するまでの時間**：接続バナーが表示されるまでの時間を秒単位で指定します。
- **ローカル プロキシ アドレス**：このセクションの設定は、ローカル RDP プロキシをバインドする IP アドレスを指定します。**[VPN のシナリオでゲートウェイ モードを使用する場合は、IP アドレス 127.0.0.1 を使用します]** オプションを選択します。この設定を有効にする必要があります。これを無効にすると、VPN を使用しているときにユーザーがアプリケーションやデスクトップを開くことができなくなる可能性があります。

[詳細] タブ

- **コンピューター名を上書き**：コンピューターがリモート デスクトップ セッション中に使用する名前を指定します。設定されている場合、これはデフォルトのコンピューター名を上書きします。サーバー側の管理者によって設定されたフィルタリングは、**[コンピューター名を上書き]** を利用します。

グローバル オプションの構成

Parallels Client のグローバル オプションを設定するには、メインメニューの **[ツール]** > **[設定]** をクリックします。



接続

- **バナー** : Parallels Client がサーバーまたはデスクトップに接続している場合、接続バナーが表示されます。スプラッシュ ウィンドウ、タスクバーのトースト ウィンドウ アイコン、または接続バナーを非表示にすることを選択することができます。
- **接続済み RAS Connection の更新間隔** : 各接続を自動的に更新する間隔を指定します。
- **すべてのセッションが終了している場合** : すべてのユーザー セッションがクローズされたときの動作を指定します。
 - **何もしない** : 何もしない。
 - **ワークステーションをロック** : コンピューターがロックされます。

- **ワークステーションからサインアウト** : 現在のユーザーがアカウントからサインアウトされます。

ログ

拡張ログを有効または無効にし、ログファイルを表示またはクリアします。

アップデート

- **アップデートをチェック** : このオプションは、管理者権限でのみ使用できます。このオプションを選択すると、Parallels Client は起動時に利用可能な Parallels Client の更新を確認します。ボタンをクリックして、更新を確認することもできます。

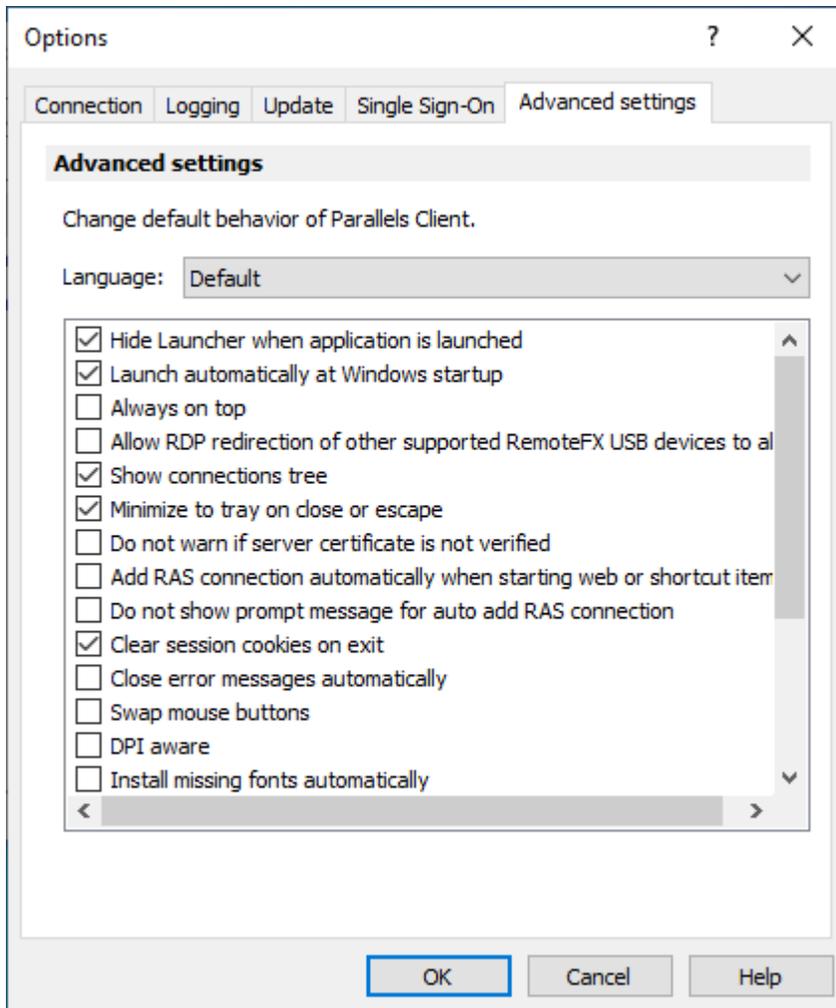
シングル サインオン

[**シングル サインオン**] ページで、組織が SSO を使用している場合は、SSO の設定を指定します。

- 1 **[有効]** ボタンをクリックして、SSO を有効にします。
- 2 組織でサードパーティの SSO コンポーネント (Parallels RAS が提供するコンポーネント以外) を使用している場合は、**[サードパーティの SSO コンポーネントを強制的にラップする]** オプションを選択してから、プロバイダを選択します。
- 3 **[GUID をクリップボードにコピー]** ボタンは、SSO コンポーネントの ID をクリップボードにコピーするために使用されます。

詳細設定

[詳細設定] タブページでは、詳細オプションを構成できます。



以下の高度なオプションを使用できます。

- **アプリケーションの起動時にランチャーを隠す**：このオプションを有効にすると、アプリケーションの起動後にランチャーがシステムトレイ内で最小化されます。
- **常にクライアント画面を前面に表示**：この機能を有効にすると、他のアプリケーションがランチャーを隠さなくなります。
- **その他のサポートされている Remote FX USB デバイスからすべてのユーザーへの RDP リダイレクトを許可します**：Remote FX USB リダイレクトは、Windows の Parallels Client で使用する前に、Windows で有効にする必要がある標準の Windows 機能です。このオプションを選択すると、Windows で Remote FX USB リダイレクト機能が有効になります。変更を有効にするには、Windows を再起動する必要があることに注意してください。

- **サーバー証明書認証の警告を表示しない**：SSL 経由で接続するときに証明書が認証されていない場合、警告メッセージが表示されます。このオプションを有効にすると、この警告メッセージを無効にできます。
- **フォルダページの表示**：このオプションを有効にすると、サーバーで構成されているアプリケーション グループの階層を表示しながら、使用可能なフォルダが表示されます。
- **閉じるときの最小化**：この機能を有効にすると、[閉じる] ボタンをクリックするか、[エスケープ] キーを押したときに、Parallels Client がシステムトレイに配置されます。
- **Windows の起動時、自動的に起動する**：このオプションでは、クライアントのスタートメニュー フォルダーにショートカットが作成され、Windows 起動時に Parallels Client が自動的に起動します。

注：現在またはすべてのユーザーのインストール中に Parallels Client ショートカットがスタートアップ フォルダーに配置された場合 (オプションはショートカット ウィザード ページで選択された)、このオプションは効果がないため表示されません。このオプションが管理者によってクライアント ポリシーを介して設定された場合も同じことが起こります。

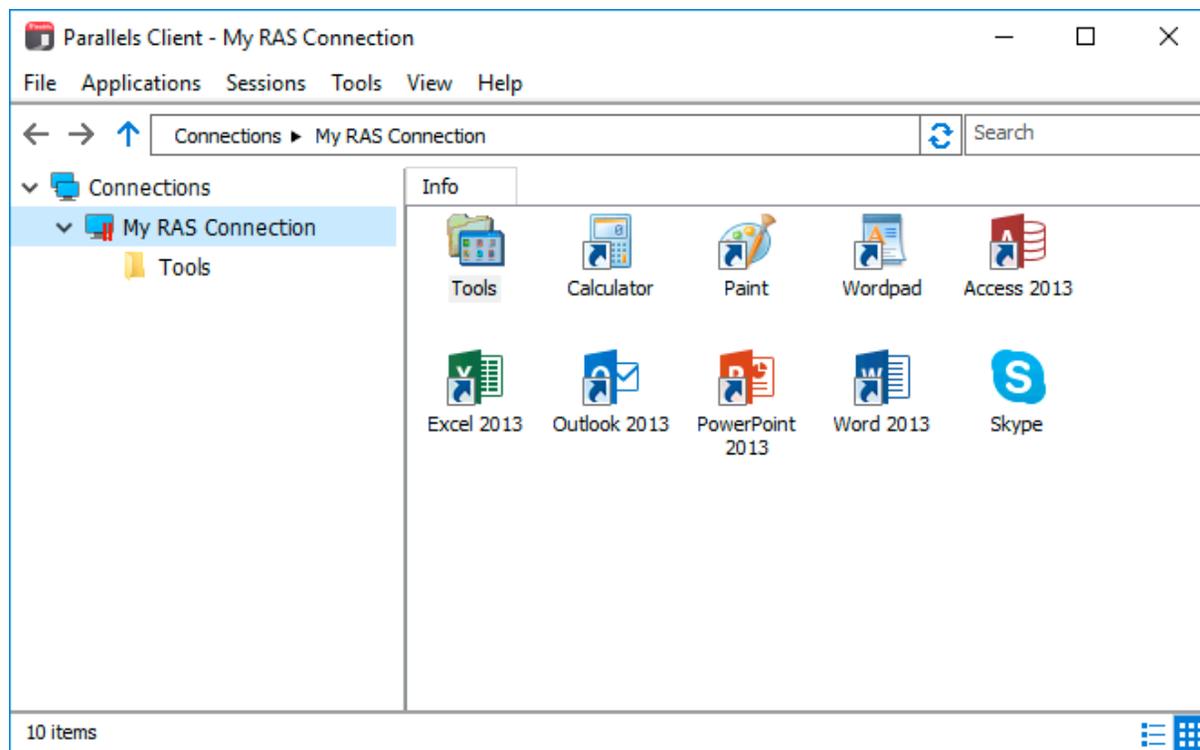
- **ウェブまたはショートカット項目の開始時に自動的に RAS 接続を追加する**：このオプションは、まだリストに表示されていない接続に含まれる項目を開始するときに、接続設定を Parallels Client に追加します。
- **RAS に自動接続する際、プロンプト メッセージを表示しない**：接続の自動追加時にプロンプトメッセージを無効にするには、このオプションを有効にします。
- **終了時にセッション Cookie を削除する**：ユーザーがログオンするとき、Parallels RAS のログオン Cookie はクライアント側に保持されます。これにより、ユーザーは再認証せずに Parallels RAS に再接続できます。ユーザーが Parallels Client を閉じるときに Cookie を削除するには、このオプションをオンにします。
- **エラー メッセージを自動的に閉じる**：エラーが原因でセッションが切断された場合、エラーは 15 秒後に自動的に解消されます。
- **足りないフォントを自動インストール (管理者のみ)**：サーバーに自動フォントがインストールされている場合、セッションの接続時に自動フォントが利用できるようになります。
- **マウスボタンの入れ替え**：この設定を有効にすると、マウスボタンがリモート コンピューター上で入れ替わります。
- **RAW プリント対応**：この設定を有効にすると、RAW 形式でデータを送信するアプリケーションで印刷ができます。
- **配布できないフォントデータをイメージへ変換**：RAS ユニバーサルプリント中に、ドキュメントに配布できないフォントが含まれている場合、各ページが画像に変換されます。
- **プリンター ハードウェア情報のキャッシュ**：プリンターのハードウェア情報をローカルにキャッシュして、RAS ユニバーサルプリンターのリダイレクトを高速化します。
- **RAS ユニバーサル プリントでの埋め込みフォントをキャッシュ**：埋め込みフォントをローカルにキャッシュして、RAS ユニバーサルプリントの処理時間を高速化します。
- **DPI 対応**：クライアントの DPI 設定に応じて、公開されたアプリケーションが DPI 対応になります。この機能は、Windows 8.1 以降で動作します。

RAS 接続の使用

Parallels RAS に接続するには、**[接続]** リストで接続をダブルクリックします (または接続を右クリックして **[接続]** を選択します)。同時に複数のアクティブな接続を持つことができます。アクティブな接続を切り替えるには、左側または右側のペインで接続をクリックします。

公開されたリソースの起動

Parallels RAS に接続すると、**[接続]** ペインに公開されたフォルダーが表示されます。左側のペインでフォルダーを選択すると、そのフォルダーに含まれるリソースが右側のペインに表示されます。管理者がフォルダーを公開していない場合は、接続自体を選択すると、使用可能なリソースが右側のペインに表示されます。



リソースを起動するには、右ペインでリソースをダブルクリックします。リソースが Windows デスクトップで開きます。右ペインでリソースを選択し、メインメニューで **[アプリケーション]** > **[開く]** をクリックして、リソースを開くこともできます。アプリケーションが開くまでに若干の遅延が生じる可能性があることに注意してください。この遅延中にリソースをもう一度ダブルクリックすると、Parallels Client はそれを無視します (つまり、アプリケーションは二重起動されません)。

デフォルトでは、Parallels Client は、リソースを起動したときにシステムトレイを最小化するように構成されています。元に戻すには、システムトレイを開き、Parallels Client アイコン  を右クリックして、[リストア] を選択します。このデフォルトの動作を変更するには、メインメニューの [ツール] > [設定] をクリックし、[詳細設定] タブを選択して、[アプリケーションの起動時にランチャーを隠す] オプションをオフにします。

以下のように、公開されたリソースビューをナビゲートおよびカスタマイズできます。

- 左ペインの上部にある矢印を使用して、[接続] ツリーを左、右、または上にナビゲートします。
- アクティブな接続ノードを展開して、公開されたフォルダーを表示します (使用可能な場合)。
- ナビゲーション文字列の一部 ([接続] > [My RAS 接続] > [アプリケーション] など) をクリックして、対応するツリーノードを表示します。
- リサイクルアイコンをクリックして、公開されたリソースビューを更新します。サーバー側で変更があった場合、それらは Parallels Client に反映されます。
- [検索] ボックスを使用して、リソースを検索します。入力すると、リストがフィルタリングされます。フィルタを削除するには、ボックスをクリアします。
- [表示] メニュー項目を使用して、公開されたリソースをアイコン、タイル、リストなどとして表示します。アイコンと詳細リストをすばやく切り替えるには、メインウィンドウの右下隅にある 2 つのアイコンのいずれかをクリックします。

リモート アプリケーションの操作

PC でリモート アプリケーションを起動すると、ローカル アプリケーションと同じように操作できます。これには、以下の標準タスクが含まれます。

- アプリケーションでローカル ファイルを開きます。
- 新しいファイルを作成し、ローカルに保存します。
- アプリケーションを最大化および最小化します (アプリケーションにコントロールがある場合)。
- アプリケーションを Windows デスクトップ内で移動します。
- アプリケーション アイコンをタスクバーに固定します (Parallels Client を閉じた後もアイコンはタスクバーに残ります)。
- ドキュメントまたはグラフィックをローカル プリンターに印刷します。
- ローカル スキャナーを使用します。

ドラッグ&ドロップ機能

リモート アプリケーションとの間でファイルをドラッグ&ドロップできます。たとえば、ローカル ファイルをリモート アプリケーションにドラッグ&ドロップして開くことも、ファイルをリモート Windows エクスプローラからローカル エクスプローラにドラッグ&ドロップすることもできます。また、画像やテキストなどのオブジェクトをリモート アプリケーションとの間でドラッグ&ドロップすることもできます。いくつかの制限が適用されるため、すべての種類のファイルおよびアプリケーションで機能するとは限りません。以下のリストは、サポートされているフォーマットについて説明しています。

- **ファイル** — ファイルは Windows エクスプローラからドラッグして、リモート アプリケーションにドロップできます。リモート アプリケーションは、ファイル自体にアクセスできる場合、ファイルを開きます。元のファイルに変更が加えられません。
- **仮想ファイルの内容** — メールクライアントからリモート アプリケーションへの添付ファイルのドラッグと同様の仮想ファイルのドラッグ。ファイルのコピーが一時的に使用されます。通常、元のファイルは変更されません。
- **グローバルデータ形式** — 画像やテキストブロックなどの要素のドラッグ。これはフォーマット自体に大きく依存するため、すべてのアプリケーションとフォーマットが機能することは保証されていません。
- **EMF 形式** — 画像とテキストを組み合わせる場合、一部のアプリケーションはデータをサポートされている EMF (拡張メタファイル) に変換します。

大量のデータを含むファイルやオブジェクトをドラッグ&ドロップすると、操作中に通知ダイアログが画面に表示されます。ダイアログには、ドラッグ&ドロップが進行中であるという情報が表示され、データの転送元または転送先の RAS 接続名が含まれます。ドラッグ&ドロップの進行中は、ソースフォルダーと宛先フォルダーまたはアプリケーションを操作できないため、通知ダイアログが閉じるまで待つ必要があることに注意してください。

ショートカットの管理

Parallels RAS との接続を確立し、利用可能な公開リソースのリストを取得した後、ローカル Windows デスクトップにリモート アプリケーションまたはデスクトップのショートカットを作成できます。

ショートカットを管理するには、[**アプリケーション**] メニュー項目をクリックして、次の項目のいずれかを選択します。

- **デスクトップにショートカットを作成**：選択した公開リソースのローカル デスクトップにショートカットを作成します。
- **表示されているすべてのアプリケーションのショートカットを作成**：右ペインに表示されるすべてのリソースのショートカットをローカル デスクトップに作成します。
- **デスクトップからショートカットを削除**：ローカル デスクトップからすべてのショートカットを削除します。

セッションの管理

Parallels Client でリモート アプリケーションまたはデスクトップを起動すると、接続用のセッションが作成されます。[**セッションを表示**] メニューからセッションを管理できます。これにより、以下のタスクを実行できます。

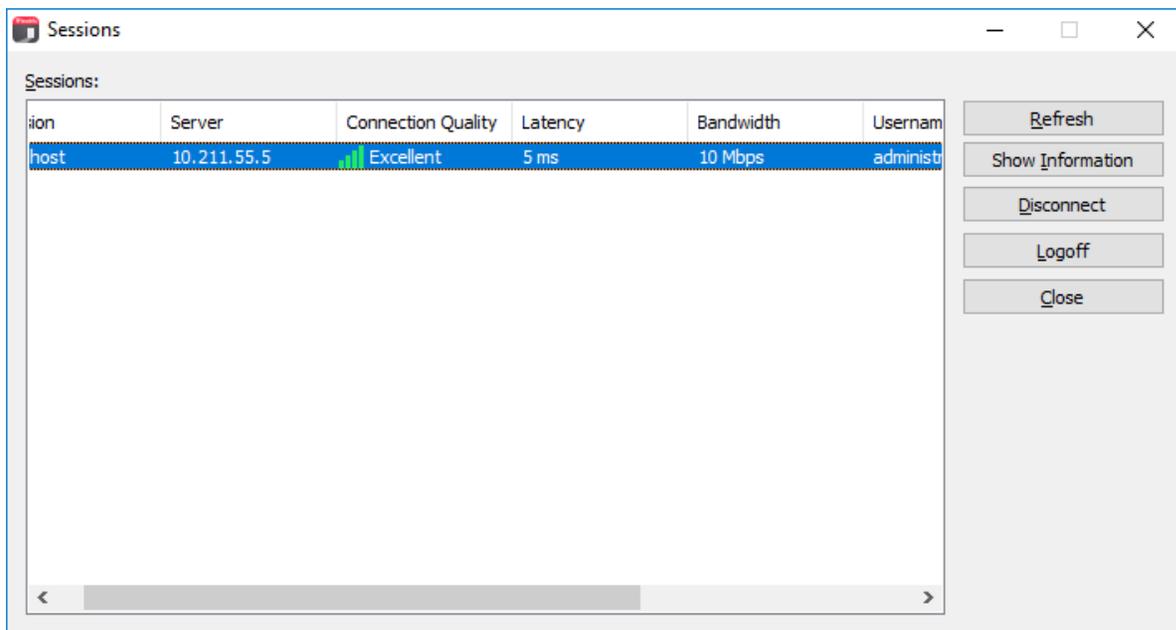
- **接続**：選択した接続設定を使用して Parallels RAS に接続します。選択した接続がアクティブな場合、このメニュー項目は無効になります。
- **最新の情報に更新**：公開されたリソースビューを更新します (情報は Parallels RAS から再取得されます)。
- **ログアウト**：リモートセッションを終了します。
- **Ctrl+Alt+Del を送る**：キーの組み合わせをリモートサーバーに送信します。

- **セッション情報**：アクティブなセッションを表示および管理します。詳細については、以下を参照してください。
- **RAS 接続をすべて切断**：すべてのアクティブな Parallels Client のセッションを切断します。リモートサーバーで実行されている対応するセッションは引き続き実行されます。
- **すべての RAS セッションからログオフする**：ローカル コンピューターとリモート コンピューター上のすべてのアクティブなセッションをログオフします。

ネットワーク パフォーマンスの評価

Parallels Client でリモート アプリケーションまたはデスクトップを操作しているときにユーザーのパフォーマンスが低下する場合、問題はバックエンドの Parallels RAS コンポーネントに関連しているのではなく、単にネットワークの状態が悪いことが原因である可能性があります。Parallels Client は、アクティブなセッションの実行中にネットワーク パフォーマンスを評価する機能を提供します。

ネットワーク パフォーマンスを評価するには、メインメニューの **[セッションを表示]** > **[セッション情報]** をクリックします。**[セッション]** ダイアログが開き、アクティブなセッション情報を表示します。



[セッション] テーブルの列は次のとおりです。

- **セッション**：セッション名。
- **サーバー**：リモートサーバー名または IP アドレス。
- **接続品質**：悪い、普通、良い、非常に良い、のいずれかになります。
- **遅延**：接続の往復遅延時間（ミリ秒単位）。
- **帯域幅**：接続帯域幅。
- **ユーザー名**：セッション所有者のユーザー名。
- **ドメイン**：ドメイン名。

- **タイプ**：接続タイプ (RAS または RDP)。

[接続品質]、**[遅延]**、および **[帯域幅]** 列の値から、ネットワークの状態が悪いことを特定するのに十分な情報を得られるはずですが、ネットワーク パフォーマンスが期待どおりでない場合は、この観点から問題に対処できます。**[セッション情報]** ダイアログ (**[接続品質]** セクション) で接続品質情報を表示することもできます。ダイアログを開くには、セッションを選択して **[情報の表示]** ボタンをクリックします。

[セッション] ダイアログのボタンを使用すると、以下のアクションを実行できます。

- **更新**：**[セッション]** リストを更新します。
- **情報の表示**：資格情報と使用されるゲートウェイ、接続モード、暗号化などを含む追加のセッション情報を表示します。
- **切断**：Parallels RAS から切断します。1 つまたは複数のリソースはローカル デスクトップでは閉じられませんが、リモートサーバーでは引き続き実行されます。その後、リソースを開くと、作業は元の場所になります。Parallels RAS から切断する前に、リソースの複数のインスタンスを開いていた場合、それらはすべてデスクトップで開きます。
- **ログオフ**：セッションを終了します。これにより、リモートサーバーで実行中のすべてのリソースが閉じられます。セッションを終了する前に、すべてのデータを保存する必要があります。
- **閉じる**：**[セッション]** ダイアログを閉じます。

ドメインアカウントのパスワードの変更

ドメインアカウントのパスワードを変更する必要がある場合は、Parallels Client から直接変更できます。

注：ドメインパスワードの有効期限が間もなく切れる場合は、Parallels RAS に接続すると、Windows タスクバー (Parallels クライアントアイコンの上) に通知が表示されます。その時点でドメインパスワードを変更するには、通知自体をクリックして **[ドメインパスワードの変更]** ダイアログを開くか、以下で説明するように、通知を閉じて後でパスワードを変更できます。

ドメインパスワードを変更するには、以下の手順を実行します。

- 1 メインメニューで **[ファイル]** > **[ドメインのパスワードを変更]** をクリックします (または接続を右クリックして **[ドメインのパスワードを変更]** を選択します)。Parallels RAS の設定によっては、Parallels Client 自体またはサードパーティのアイデンティティ プロバイダを介してパスワードを変更することができます。
 - **[ログイン]** ダイアログが表示された場合、現在のパスワードを入力し、**[OK]** をクリックします。**[ドメインのパスワードを変更する]** ダイアログで、両方のフィールドに新しいパスワードを入力します。パスワードは、システム管理者が設定した要件を満たしている必要があります。要件がダイアログに表示され、入力したパスワードがこれらの要件に対して検証されます。パスワードの変更を続行するには、すべての要件を満たしている必要があります。パスワード要件が満たされたら、**[パスワード変更]** をクリックします。
 - **[ドメインのパスワードの変更]** が表示された場合、**[パスワードの変更]** ボタンをクリックし、サードパーティの ID プロバイダを介してパスワードを変更します。ダイアログに戻り、**[パスワード変更完了]** ボタンをクリックします。

ドメインアカウントのパスワードが変更されました。Parallels Client の既存の接続は、新しいパスワードを使用するように自動的に更新されます。

RDP 接続の使用

標準のリモート デスクトップ接続を追加したら、それをダブルクリック (または右クリック > **[接続]**) して、リモート コンピューターとの接続を確立します。

同時に複数のアクティブな接続を持つことができます (標準の RDP と Parallels RAS の両方)。Parallels Client でアクティブな接続を切り替えるには、左側のペインで接続をクリックするか、右側のペインで対応するタブページをクリックします。

[接続] リストでアクティブな RDP 接続を右クリックして、次のアクションを実行します。

- **接続** : このアイテムは、アクティブな接続では無効になっています。
- **接続プロパティ** : 接続を構成できる **[接続プロパティ]** ダイアログを開きます。詳細については、「**RDP 接続の構成** (p. 40)」を参照してください。
- **スマートサイズ** : 有効にすると、スマートサイズによってリモート デスクトップのサイズが変更され、使用可能な領域に収まります。
- **ランチャー内で実行** : このアイテムをクリックして、リモート デスクトップを新しいウィンドウに移動します (Parallels Client のメインウィンドウの外に浮かびます)。リモート デスクトップを Parallels Client ウィンドウに戻すには、メニュー項目をもう一度クリックします。
- **デスクトップにショートカットを作成** : ローカル デスクトップにこの接続のショートカットを作成します。
- **デスクトップからショートカットを削除** : デスクトップから接続ショートカットを削除します。
- **切断** : 選択した接続を切断します。
- **削除** : 接続を削除します。

複数のモニターを使用する

ローカル コンピューターに複数のモニターが接続されている場合は、リモート デスクトップを選択したモニターに移動できます。リモート デスクトップから切断して後で再接続すると、モニターの選択が記憶されるため、リモート デスクトップは前回と同じモニターに表示されます。モニターが使用できなくなった場合、リモート デスクトップがデフォルトのモニターに表示されます。

Parallels クライアント設定のエクスポートとインポート

現在の Parallels Client 設定をファイルにエクスポートして、バックアップを作成したり、別のコンピューターにインストールされている Parallels Client に設定を転送したりできます。以下の設定がエクスポートされます。

- すべての個別の接続プロパティを含むすべての既存の接続。
- Parallels Client のグローバルオプション。

現在の Parallels Client 設定をファイルにエクスポートするには、以下の手順を実行します。

- 1 メインメニューの **[ファイル]** をクリックし、**[エクスポート設定]** をクリックします。
- 2 開いたダイアログで、**[...]** ボタンをクリックしてファイル名と保存先フォルダを指定します。
- 3 エクスポートされた設定に資格情報を含める場合は、**[エクスポートされた接続にアクセス資格情報を含める]** オプションを選択します。結果のファイルには機密情報が含まれることに注意してください。
- 4 **[保存]** をクリックして設定をエクスポートします。ファイルは拡張子 ". 2 xc" で保存されます。

ファイルから設定をインポートするには、以下の手順を実行します。

- 1 **[ファイル]** > **[インポート設定]** をクリックします。
- 2 開いたダイアログで、". 2 xc" ファイルを選択し、**[開く]** をクリックします。ファイルに保存されている Parallels Client の設定は、現在の Parallels Client の設定を上書きすることに注意してください。

Parallels クライアント コマンドライン パラメーター

コマンドラインからの単一ユーザー セッションの管理

Windows 用 Parallels Client の以下のパラメーターは、コマンドラインから単一のクライアント セッションで公開アプリケーションと公開デスクトップを起動する場合に使用できます。

パラメーター	注意事項
sl='primary server'	プライマリ サーバーのホスト名または IP アドレス。
bl='backup server'	セカンダリ サーバーのホスト名または IP アドレス。
al='application/desktop id'	アプリケーション / デスクトップ ID を公開します。
pl='override application params'	
tl='port'	Parallels RAS サーバー接続のポートです。
ul='username'	接続するユーザーのユーザー名。
ql='password'	ユーザーのパスワード。
d!'domain' ignored if user name is in UPN format	ドメイン名。
ll='0/1' 0 use primary server, 1 user backup server	プライマリ サーバーとバックアップ サーバーのいずれかに接続するために値を指定します。またはバックアップ サーバーに接続するために値を指定します。
ml='connection mode' (gateway mode = 0, direct mode 1, gateway ssl mode = 2, direct ssl = 3, direct rdp=4)	接続モードの値を指定します。
ol='0/1' if set to 1 credentials are overwritten with SSO information if available	1 に設定すると、認証情報は SSO 認証情報で上書きされます。SSO の資格情報で上書きされます。
il='connection alias'	接続 Alias を指定します。
cl	資格情報必須。

rl	接続が切断された場合は再接続します。
----	--------------------

例

1 コマンドプロンプトで、Parallels Client がインストールされている場所へ移動し、次のコマンドを実行します。

```
TSClient.exe sl='2008ad1.2x.testing' al='#50' tl='80' dl='2x.testing'
ul='testerjm'q='123456' ml='0'
```

上記のコマンドを実行すると、ユーザーtesterjm用に ID 92 で公開されたアプリケーションが起動します。

コマンドラインからの複数セッションの管理

コマンドラインから複数のセッションを管理するには、以下の Windows 用 Parallels Client パラメーターを使用します。

パラメーター	注
-s filename	"filename" にセッション情報を書き込みます。
-importsettings filename	"filename" からセッション設定をインポートします。
-disconnectallsessions	すべての RAS および RDP 接続を切断します。
-logoffallsessions	すべての RAS セッションをログオフし、すべての RDP セッションを切断します。
-sharedevice "mode:args" 可能なモードは以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> 0 : すべての共有デバイス情報を削除する。既存の共有接続は、クライアントの起動時に削除されます。 1 : 共有接続と共有接続情報 (サーバー、ポート、モード、バックアップ接続、接続モードなど) を作成します。 2 : 共有接続と共有接続情報 (サーバー、ポート、モード、バックアップ接続) 、ユーザー名とパスワードを作成します。接続モードは資格情報。 可能な引数は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> ui : 共有接続情報と資格情報を入力するための UI ダイアログを表示します。 import : 共有接続情報と資格情報をファイルからインポートします。 export : 共有接続情報と資格情報をファイルからインポートします。 	同じ Windows コンピュータで作業する複数のユーザーのために、1 つの共有接続を管理します。 可能な組み合わせは以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> 0 : 1 : ui 1 : import:file 1 : export:file 2 : ui 2 : import:file 2 : export:file

使用方法

これらのパラメーターを使用して Windows 用 Parallels Client を呼び出すには、appserverclient.exe バイナリ ファイルを使用します。

例えば、以下のコマンドを実行すると、実行中のセッションがすべて切断されます。

```
appserverclient.exe -disconnectallsessions
```